国際ロータリー第 2840 地区［群馬］2026–2027年度

Vol.4
2026.10
ガバナー月信

GOVERNOR'S
MONTHLY LETTER

To all Rotary members in RID2840



Rotary
District2840

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
To all Rotary members in RID2840

CONTENTS

ガバナーメッセージ

「世界ポリオデーに考える、ロータリーの約束とその先へ」…… 02
「地域社会の経済発展を、身近なところから考える」…… 06
「米山月間 ―奨学金の先にあるつながり―」…… 08

ガバナーからの問いかけ

「ロータリーを、もう一度考える」…… 10
「奉仕の理念を考える ① ―理念は、振る舞いに現れる―」…… 12

地区委員会委員長紹介 …… 16

各種報告

第２回 インターアクト委員会 …… 17
第１回 青少年交換委員会 …… 18
青少年交換派遣学生選考会 …… 19
米山記念奨学指定校説明会 …… 20
クラブ活性化ワークショップ …… 21
ロータリー財団補助金管理セミナー …… 25
RLIセミナー Part Ⅰ …… 27
RYLA・学友委員会 …… 28
第3回 インターアクト委員会 …… 29
第1回 公共イメージ・ICT推進委員会 …… 30
群馬県ロータリー野球大会　開会式 …… 31

お知らせ

2026-2027年度 ガバナー公式訪問要領・ガバナー公式訪問日程表 …… 32
2026-2027年度 地区主要行事予定表 …… 36
2026-2027年度 周年行事・IM 予定表 …… 38
出席報告・My Rotary 登録率 …… 39
新会員紹介 …… 41
新会員入会実績報告（8 月末日現在） …… 43

ガバナーコラム

・ なぜ今、「予防」なのか …… 44
・ ローターアクトを、もう一歩考える …… 48
・ 公共イメージを、もう一度考える …… 53

ガバナー月信の表紙について …… 59
ガバナー事務所よりお願い …… 60

ガバナーメッセージ 1
世界ポリオデーに考える、ロータリーの約束とその先へ
― ポリオ根絶が育てた協力の力―

世界ポリオデーに考える

毎年 10 月 24 日は「世界ポリオデー」です。
ロータリーが、最初のポリオワクチンの開発を率いたジョナス・ソーク博士を記念して定めました。今では世界各地のロータリー会員と活動のパートナーが、根絶への歩みを確かめ、まだ届いていない子どもたちに目を向ける日となっています。[11]

この日に、私はロータリーのポリオ根絶活動を、寄付や予防接種の実績だけでなく、人々がどう力を合わせてきたかという視点から考えてみたいと思います。

一つの地域で始まった活動は、各国政府や国際機関との協力へと広がりました。その過程で、子どもたちの健康と、地域に残る力を生み出してきたのではないでしょうか。

寄付の先にあるもの

ロータリーのポリオ根絶活動について、私たちは募金額や症例数を目にする機会が多くあります。しかし、数字を追うだけでは、この活動が何を生み出してきたのかを捉えきれないように思います。

一人の子どもにワクチンを届けるためには、地域の人々に活動を理解してもらい、医療従事者を育て、移動手段を確保し、接種後もウイルスを監視し続けなければなりません。ロータリーは長い年月をかけて、その仕事を各国政府や国際機関とともに担ってきました。

フィリピンから世界へ―― ロータリーが歩んだ道

ロータリーの活動は、最初から世界規模だったわけではありません。1979 年、フィリピンで子どもたちへの予防接種を支援した経験が、より大きな目標へとつながりました。[1]

年	主な出来事	活動の意味
1979年	フィリピンでポリオ予防接種事業を開始	一つの地域の子どもたちを守る取り組みから出発
1985年	ロータリーが「ポリオプラス」を開始	世界からポリオをなくすという目標を掲げる
1988年	世界ポリオ根絶イニシアチブ（GPEI）が発足	各国政府と国際機関による世界的な協力体制へ
1995年	大規模な一斉予防接種が各地に広がる	多数の子どもに短期間でワクチンを届ける仕組みが発展
2000年	WHO西太平洋地域で野生株ポリオの根絶が認定される	日本を含む地域で、継続した接種と監視の成果が形になる
2007年以降	ゲイツ財団との資金協力が拡大	ロータリアンの寄付を、より大きな活動資金につなげる
2014年・2020年	WHO東南アジア地域、アフリカ地域で順に野生株ポリオの根絶が認定される	困難な地域でも、長期の協力によって前進できることを示す

1988 年には、世界の 125 を超える国で、年間約 35 万人がポリオを発症していたと推計されています。現在、野生株ポリオの常在国はアフガニスタンとパキスタンの 2 か国です。[2]

ここまでの歩みは大きな成果です。

一方で、常在国が 2 か国になったことは、ほかの国への流入や、ワクチン由来株による流行への備えが不要になったことを意味しません。最後の一人まで守り、再び広がらない状態を維持する仕事が残っています。

世界ポリオ根絶イニシアチブ　GPEI――異なる力を持ち寄るパートナーシップ

世界ポリオ根絶イニシアチブは、ロータリーが単独で進めてきた事業ではありません。

活動する国の政府が主導し、ロータリー、世界保健機関（WHO）、国連児童基金（UNICEF）、米国疾病対策センター（CDC）、ゲイツ財団、Gavi ワクチンアライアンスが、それぞれの強みを持ち寄るパートナーシップです。

ロータリー自身も、これらの組織をポリオ根絶活動の主要パートナーとして紹介しています。[3][4][5]

パートナー	持ち寄る力
活動する国の政府と地域の人々	接種活動を実施し、子どもや保護者に向き合う
ロータリー	会員の参加、寄付、社会への呼びかけ、政府への働きかけ
WHO	公衆衛生の専門知識、活動の調整、ウイルスの監視
UNICEF	ワクチンの供給、地域との対話
CDC	疫学調査、検査、技術的な支援
ゲイツ財団	資金、研究や技術面への支援
Gaviワクチンアライアンス	各国の予防接種体制への支援

この表で大切なのは、どの組織が最も貢献したかを比べることではないと思います。

資金があっても、ワクチンを届ける人がいなければ接種はできません。

ワクチンを届けても、地域の理解が得られなければ、すべての子どもには届きません。

接種が進んでも、ウイルスを見つける監視の仕組みがなければ、根絶を確かめることはできません。

ロータリーは、この協力の輪の中で、自ら行動するとともに、人々や政府に働きかけてきました。

私はそこに、ロータリーらしい役割を見るのです。

それぞれの力が生きる関係を築くこと。ポリオ根絶活動は、長い年月をかけて、その実践を私たちに示してきたのではないでしょうか。

資金の全体像に見る、協力の広がり

GPEI が公表した 1985 ～ 2024 年の拠出資料では、集計総額は約 218 億米ドルです。[6]

ロータリーを独立した行に示すため、ゲイツ財団がロータリーの寄付に上乗せした資金は二重に数えず、概算で整理しました。

拠出元	概算額	構成比
各国政府など	約89億3,300万米ドル	約41.0%
ゲイツ財団など、ロータリー以外の民間・非政府組織	約72億5,100万米ドル	約33.3%
ロータリー独自の拠出分	約13億7,900万米ドル	約6.3%
国際機関など	約24億200万米ドル	約11.0%
活動を実施する国の国内資金	約18億3,200万米ドル	約8.4%

この割合は、資料に計上された資金の内訳です。ロータリアンの奉仕時間や、政府への働きかけの価値を金額に換算したものではありません。

また、国内資金には金額が把握されている国の分が掲載されています。ロータリーの約 6.3% という数字を、活動全体への貢献度と読み替えることはできません。[6]

私たちの寄付は、ほかの多くの資金や専門的な仕事と結びつき、子どもたちに届いています。

この表は、ロータリーだけで何を成し遂げたかではなく、どれほど多くの人々が同じ目標に参加してきたかを示していると思います。

ポリオプラスの「プラス」が意味するもの

「ポリオプラス」の中心は、もちろんポリオの根絶です。では、何が「プラス」なのでしょうか。

予防接種の現場では、ポリオのワクチンだけを持って行けば十分とは限りません。

例えば、ポリオの接種機会に合わせてビタミン A を届ける活動は、子どもたちの健康を守ることにもつながりました。ロータリーは、安全な水へのアクセスや、ほかの予防接種への支援も「プラス」の取り組みとして紹介しています。[7]

これらは、ポリオ根絶という目的から離れた活動ではないと思います。

子どもを接種会場まで連れてくる保護者にとって、ポリオも、栄養も、水も、日々の暮らしの中にある切実な問題です。その声を聴き、地域に必要な支援とともにワクチンを届ける。そこで育まれる信頼もまた、根絶活動を前へ進める力になります。

そして、その支援を形にするにも、地域の人々、政府、医療機関、国際機関の協力が必要です。

GPEI のパートナーシップは、組織同士が協定を結ぶことだけを意味するのではありません。現場で出会う人々とともに、一人の子どもに必要なものを考え、届けることまで含んでいるのだと思います。

一つの疾病対策から生まれた広がり

ポリオのために築かれたものは、ワクチンを運ぶ経路だけではありません。

子どもを一人ずつ訪ねる人材、症状を見つけて報告する仕組み、検体を調べる検査網、流行時に素早く対応する経験が各地に蓄積されました。

GPEI によれば、こうした人材や仕組みは、麻しんなどの感染症の監視、エボラ出血熱や新型コロナウイルス感染症への対応にも活用されてきました。[8]

ポリオの活動を通じて得た力が、別の健康上の危機に向き合う際にも役立っているのです。

同時に、この広がりは自然に続くものではありません。

ポリオの流行が収まった地域でも、監視や定期予防接種を支える人と仕組みをどう維持するかが問われます。[9]

根絶という目標に向かいながら、その過程で築いた地域の力を次の世代へ手渡すことも、私たちが考えたい課題です。

約束を果たし、その先へ――「Beyond Polio」

フランチェスコ・アレッツォ 2025–26 年度国際ロータリー会長は、『ロータリーの友』2026 年 6 月号のメッセージで、ポリオ根絶を世界の子どもたちとの約束として語っています。[10]

私も、まずこの約束を果たすことが、私たちの責任だと思います。

そのための活動は、ロータリー自身にも多くの経験をもたらしました。世界共通の目標に向かって長く行動する力。異なる専門性を持つ組織と役割を分け、協力する力。地域の声を聴きながら、政府に働きかける力です。

WHO や UNICEF をはじめとするパートナー、そして各国政府にとっても、この取り組みは、大規模な予防接種、感染症の監視、緊急時の連携を積み重ねる機会となりました。私は、その経験をポリオのためだけに閉じておきたくありません。

「Beyond Polio」は、私自身が、この活動の先を考えるために使っている言葉です。

ポリオ根絶をやり遂げることを第一にしながら、そこで育てた信頼と協力を、ほかの感染症の予防や地域の健康にもどう生かしていけるか。その問いを込めています。

ロータリーは、世界の課題に対して、自分たちだけで答えを出す必要はありません。

地域には、その課題と日々向き合っている人たちがいます。相手の経験や専門性を知り、私たちにできることを持ち寄る。ポリオ根絶活動から学んだ協力の仕方は、私たちの身近な奉仕にもつながるのではないでしょうか。

長い歴史の最後の一歩を支えることと、積み重ねた力を未来へつなぐこと。皆さんのクラブでは、ポリオ根絶活動から得た経験を、誰と、どのような行動へつなげていきたいでしょうか。

参考資料・出典

［1］ 国際ロータリー「ポリオフリーへの闘い：そのルーツ」https://www.rotary.org/ja-jp/articles/2018/12/history-rotary-polio-eradication-efforts
［2］ WHO, “Poliomyelitis”https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/poliomyelitis
［3］ 国際ロータリー「パートナーシップ」https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/partnerships
［4］ 国際ロータリー「ポリオ根絶を解説」https://www.rotary.org/ja/polio-eradication-explained
［5］ GPEI, “Partners” https://polioeradication.org/who-we-are/partners/
［6］ GPEI, “Contributions to the Global Polio Eradication Initiative, 1985–2024”（2025年 7 月 3 日時点、提供資料）。表の構成比は同資料から再計算。
［7］ ロータリー,“The plus in PolioPlus” https://poliocampaign.rotary.org/the-plus-in-polioplus
［8］ GPEI, “Polio Infrastructure: On the Frontline of Health Emergencies” https://polioeradication.org/wp-content/uploads/2024/06/Polio-Infrastructure-On-the-Frontline-of-Health-Emergencies-20220131.pdf
［9］ WHO, “Polio | WHO Regional Office for Africa” https://www.afro.who.int/health-topics/polio
［10］フランチェスコ・アレッツォ「RI会長メッセージ」『ロータリーの友』2026年 6 月号。
［11］国際ロータリー「パキスタンでのポリオ撲滅活動における課題の克服」https://www.endpolio.org/ja/node/1363／国際ロータリー「ポリオ根絶を解説」https://www.rotary.org/ja/polio-eradication-explained

ガバナーメッセージ 2
地域社会の経済発展を、身近なところから考える

10 月は、国際ロータリーが定める「地域社会の経済発展月間」です。ロータリーは、仕事に役立つ技能の習得や就労の支援などを通じて、人々と地域社会が自ら歩んでいく力を育てようとしています。

地域社会の経済発展というと、遠くの貧困地域で行う大規模な支援事業を思い浮かべる方もいるでしょう。しかし、このテーマは、私たちのクラブが身近な地域で行ってきた活動にもつながっています。

地区内のクラブでは、高校生に向けた職業講話などが行われています。
さまざまな仕事に携わる会員が、自分の経験を若い世代に伝える。
そこで語られるのは、仕事の内容だけではありません。働く中で何を大切にしてきたか、どのような失敗や出会いがあったか。高校生が地域の仕事や働く人を知り、自分の将来を考えるきっかけになります。
地域経済の担い手を育てることも、経済発展につながる大切な取り組みだと思います。

人が育つとともに、その力を発揮できる基盤も必要です。
地域の企業や学校、行政などがつながり、学ぶ機会や働く機会を広げる。
事業を続ける人が抱える課題を知り、技術や経験を次の世代へ手渡す。
クラブがそのすべてを担うことはできませんが、多様な職業の会員が集まるロータリーだからこそ、人と人をつなぎ、話し合う場をつくることはできるはずです。

さらに、今ある仕事を支えるだけでなく、地域経済の新たな可能性にも目を向けたいと思います。
若い人の発想、地域にある資源、新しい仕事に挑戦する人の思い。
可能性の芽は、初めから大きな事業の形をしているとは限りません。その人の話を聞き、必要な人や経験とつながることで、育っていくものもあるでしょう。

そのためにも、会員の知識や経験だけで地域の課題や答えを決めるのではなく、実際に地域で暮らし、働き、学ぶ人たちの声を聞きたいと思います。
私が掲げる「ロータリーを開く」とは、そうした人たちとともに地域を考えることでもあります。
「何をしてあげられるか」だけでなく、「一緒に何ができるか」。そこから生まれた活動が、地域にどのような変化をもたらすのかも見つめていきたいと思います。

職業講話から始まる若い世代との出会いも、会員の仕事を通じて生まれる地域とのつながりも、経済発展を考える入口になります。
この 10 月、私たちの身近にある活動を見つめ直し、地域の人たちとともに、その先に何ができるかを考えていただければと思います。

地域社会の経済発展月間のリソース

◇ 地域経済の発展｜国際ロータリー
https://www.rotary.org/ja-jp/our-work/growing-local-economies
重点分野の趣旨と活動事例を紹介しています。

◇ ロータリーの活動分野｜国際ロータリー
https://www.rotary.org/ja-jp/our-work
地域社会の経済発展を、ほかの活動分野との関係から見ることができます。

◇ 奉仕プロジェクトセンター
https://spc.rotary.org/learnmore
ほかのクラブのプロジェクトを探し、自クラブの活動を共有するための入口です。

◇ ロータリー行動グループ｜国際ロータリー
https://www.rotary.org/ja-jp/get-involved/our-programs/rotary-action-groups
専門知識を持つ会員との連携や、プロジェクト立案時の助言について調べられます。

◇ パートナーシップ｜国際ロータリー
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/partnerships
企業・団体などとの協力の形を紹介しています。

◇ 補助金｜国際ロータリー
https://www.rotary.org/ja-jp/get-involved/our-programs/grants
地区補助金とグローバル補助金の概要を確認できます。

◇ グローバル補助金の参考資料｜奉仕プロジェクトセンター
https://spc.rotary.org/grantresources
「重点分野の基本方針」と「地域社会の経済発展」のグローバル補助金ガイドラインへの入口です。

◇ ロータリーボイス
https://rotaryblogja.org/
日本語で会員や活動参加者の経験、プロジェクトの話を読めます。

ガバナーメッセージ 3

米山月間
― 奨学金の先にあるつながり ―

10 月は、日本のロータリーが独自に定める「米山月間」です。米山記念奨学事業への理解を深め、寄付を通じて支えるとともに、この事業が私たちのクラブにとってどのような意味を持つのか、考える機会にしたいと思います。

米山記念奨学事業は、日本で学ぶ外国人留学生を支援し、将来、日本と母国との懸け橋となる人を育てることを目的としています。
その特徴は、奨学金の支給に加え、世話クラブとカウンセラーが奨学生に関わることにあります。奨学生は世話クラブの例会に参加し、会員と交流します。
そこで日本の地域や文化、さまざまな職業の人々に触れ、私たちもまた、奨学生から異なる文化や考え方を学びます。

「日本と母国との懸け橋」という目的を、奨学生が将来何をしてくれるかという期待だけで捉えたくはありません。互いを一人の人として知り、対話を重ね、信頼できる関係を育てること。その積み重ねに、この事業の意義があると思います。

一方で、長く続いてきた事業だからこそ、問い直してみたいこともあります。
現在の奨学金の対象や選考の仕組みは、支援を必要とする留学生にどのように届いているでしょうか。
例会への参加は、奨学生が安心して自分の考えを話し、会員と関係を築ける時間になっているでしょうか。
奨学期間が終わった後も、学友とのつながりを育てられているでしょうか。

そして、日本にも、経済的な事情をはじめ、さまざまな課題を抱えながら学ぶ学生がいます。その学生たちへの支援も大切ではないかという声には、私たちも耳を傾ける必要があります。
米山記念奨学事業が果たしている役割を理解することと、地域の学生が必要としている支援を考えることは、両立できるはずです。

地区内には、クラブ独自の奨学金や学生への支援を続けているところもあります。
それぞれの取り組みが誰に届き、何を支えているのか。地域の学校やほかの支援団体の活動にも目を向け、まだ届いていない支援がないか考えてみたいと思います。
制度の目的を確かめながら、その周りにある課題にも目を向ける。そのことが、私たちの学生支援をより豊かなものにすると思います。

当地区では、2026 学年度に 27 名の米山奨学生を支援しています。
しかし、地区内のすべてのクラブが奨学生の世話クラブになっているわけではありません。
だからといって、世話クラブでないクラブにとって、米山が寄付と報告だけの事業になってしまうのは惜しいと思います。

奨学生や学友を例会に招き、その研究や将来の希望に耳を傾ける。
近隣のクラブとともに交流の場を設ける。
地域を知ってもらい、奉仕活動にも、本人の関心を聞きながら一緒に参加する。

そうした関わり方は、世話クラブでなくても考えられます。
地区の米山記念奨学委員会や学友会には、クラブと奨学生・学友をつなぐ役割を期待したいと思います。第 2840 地区には米山学友会があり、地区委員会も奨学生を受け入れたことのないクラブを減らす目標を掲げています。

出会いが、すぐに目に見える成果を生むとは限りません。それでも、奨学生や学友と話すことで、私たちは自分たちの地域や仕事を違う視点から見直せるかもしれません。
国際理解も、遠くの出来事を知ることからだけでなく、目の前の一人を理解しようとすることから始まります。

米山月間を、事業を知り、支える月間にするとともに、奨学生や学友との関係を開く機会にしたいと思います。
世話クラブであるかどうかにかかわらず、私たちのクラブには、どのような関わり方ができるでしょうか。そして、地域で学ぶ学生に対して、ほかに何ができるでしょうか。皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

米山月間のリソース

◇ 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
https://www.rotary-yoneyama.or.jp/
事業の概要、奨学生・学友の活動、最新のお知らせ。

◇ 米山記念奨学会について
https://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary
事業の目的、世話クラブとカウンセラーの役割。

◇ 米山記念奨学生の状況
https://www.rotary-yoneyama.or.jp/report
奨学生数や学友数などの公表資料。

◇ 米山学友会について
https://www.rotary-yoneyama.or.jp/scholar/alumni
国内外の学友会とその活動。第2840地区米山学友会も掲載されています。

◇ ハイライトよねやま
https://www.rotary-yoneyama.or.jp/blog/news/
米山記念奨学会が発行するニュース。奨学生や学友の活動を知ることができます。

ガバナーからの問いかけ 1

― ロータリーを、もう一度考える ―

序章　問いを手渡す

ガバナー二年目も、三か月が過ぎました。
一年目は、目の前のことに向き合うことで精一杯だったように思います。初めて経験することも多く、次に何があるのか、そのために何をしなければならないのかを考えながら、一年間を走ってきました。

二年目になると、少し景色が変わりました。
これから何があるのかが分かる。年度全体を見渡すこともできる。そして、自分がこれまで何をしてきたのか、これから何をしようとしているのかを、少し離れたところから見ることもできるようになりました。

だから今、一度立ち止まってみようと思います。
そして、目の前のことだけではなく、もう少し先のロータリーについて考えてみたいと思うようになりました。

二年間のガバナーとして、多くのクラブを訪ね、多くの会員の皆さんと話をしてきました。
そこで改めて感じたことがあります。
同じロータリーでも、同じクラブは一つもない。
歴史も違う。地域も違う。会員構成も違う。奉仕の形も違う。そして、それぞれのクラブには、長い時間をかけて培ってきた文化があります。

その違いは、ロータリーの豊かさだと思っています。
しかし、違いに触れれば触れるほど、逆に一つの問いが浮かんできました。

では、これほど違う私たちを「ロータリー」としてつないでいるものは何なのでしょうか。

例会でしょうか。奉仕活動でしょうか。クラブという組織でしょうか。歴史や伝統でしょうか。

どれも大切です。
しかし、そのさらに奥に、時代や地域、クラブの違いを越えて、ロータリーの根底に流れているものがあるのではないでしょうか。

そんなことを考える中で、私は改めて「奉仕の理念」に向き合うようになりました。
ロータリーの根幹とは何なのか。
そこから考え始めると、問いはさらに広がっていきました。
その根幹を持つロータリーは、どのような形であるべきなのか。
会員、クラブ、分区、地区は、それぞれ何のために存在しているのか。
そこに集う私たちは、どのようなあり方を大切にするのか。
クラブの文化はどのようにつくられ、会員やリーダーはどのように関わっていくのか。

そして、創立から 120 年を超えたロータリーが、これからも必要とされ続けるために、何を変え、

何を残し、どのように継続し、発展していくのか。

考えてみたいことが、次々に出てきました。
そこで今月から、月信の中に「ガバナーからの問いかけ」という新しいコーナーを始めます。

まず、ロータリーの根幹を考える。
次に、ロータリーの形を考える。
そして、人とクラブのあり方を考える。
さらに、その先にある継続と発展を考える。

最初のシリーズは、**「奉仕の理念を考える」**です。

その後、自治体や老舗企業など、ロータリーとは異なる組織にも目を向けながら、少し離れたところからロータリーを見つめ直してみたいと思っています。
ただし、最初からすべてのテーマを決めてしまうつもりはありません。
これからもクラブを訪ね、人と出会い、ロータリーの内外でさまざまなものに触れる中で、新しい問いが生まれるでしょう。
それも、このシリーズに加えていきたいと思います。

私は、このシリーズでロータリーについての唯一の正解を示そうとは思っていません。
私自身、まだ考えている途中です。
二年間のガバナーという時間の中で、何を見て、何を感じ、何を考えるようになったのか。
それを私なりの言葉にしてみる。

そして、答えを示すのではなく、問いとして皆さんに手渡してみる。
皆さんがその問いを受け取り、それぞれのクラブで、それぞれの立場で考える。
そこから、また新しい問いや行動が生まれていく。
そんなことを期待しています。

まずは、ロータリーの根幹から始めます。

「奉仕の理念」とは何なのか。
そして、私たちはその理念をどう生きるのか。

ここから皆さんと一緒に、ロータリーを、もう一度考えてみたいと思います。

ガバナーからの問いかけ 2

奉仕の理念を考える①
― 理念は、振る舞いに現れる ―

引用文は原文を併記し、引用・参照資料は各章末に掲げました。

第一章　ロータリーの根幹とは何か

ロータリーの根幹とは何でしょうか。
日本のロータリーでは、長く「職業奉仕こそがロータリーの根幹である」と語られてきました。私自身もまた、その言葉を何度となく耳にし、職業奉仕はロータリーを特徴づける大切なものだと考えてきました。
ロータリークラブには、さまざまな職業に携わる人が集まります。
異なる職業を持つ人が出会い、経験や知識を持ち寄り、互いに学び合う。そして、自らの職業を、単に生計を立てるための手段としてではなく、社会に役立つ機会として捉えていく。
そこに、ロータリーならではの価値があります。

では、なぜ職業奉仕は、それほど大切なのでしょうか。
職業上の高い倫理基準を保つからでしょうか。自らの仕事を通じて人の役に立つからでしょうか。培った知識や経験を、地域や社会のために生かすからでしょうか。

そのいずれも、職業奉仕の大切な側面だと思います。
しかし、この問いをさらに掘り下げていくと、もう一つの問いに行き着きます。
職業奉仕を生み出しているものは、何なのでしょうか。

ロータリーの公式文書に立ち戻る
この問いを考えるために、まず「ロータリーの目的（The Object of Rotary）」に立ち戻ってみたいと思います。
その冒頭には、次のように記されています。
“The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise.”
「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」
ここで注目したいのは、「ロータリーの目的」の冒頭に置かれているのが、職業奉仕という言葉ではなく、
“the ideal of service”「奉仕の理念」
であることです。

「奉仕の理念」は、後世の研究者がロータリー思想を説明するためにつくった言葉ではありません。RI 定款および標準ロータリークラブ定款に収められた、ロータリーの公式な言葉です。[1]
さらに、「ロータリーの目的」には、この奉仕の理念を具体的に展開する四つの項目が掲げられています。
第一は、
“The development of acquaintance as an opportunity for service.”
「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。」
人と人とが出会い、互いを知ることが、奉仕への入口になるという考え方です。

第二は、
“High ethical standards in business and professions…”
「職業上の高い倫理基準を保つこと……。」
さらに、あらゆる有用な職業の価値を認め、それぞれの職業を通じて社会に奉仕することが示されています。ここに、職業奉仕の重要な基礎があります。

第三には、
“The application of the ideal of service in each Rotarian’s personal, business, and community life.”
「ロータリアン一人ひとりが、個人生活、職業生活および社会生活において奉仕の理念を実践すること。」
とあります。
奉仕の理念は、クラブで奉仕活動をするときだけのものではありません。個人としての生活にも、職業生活にも、地域社会での行動にも関わるものとして示されています。

そして第四は、
“The advancement of international understanding, goodwill, and peace…”
「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。」
へと続きます。

人との出会いから始まり、職業、個人生活、社会生活、そして国際理解、親善、平和へ。
これらを一つにつないでいるものが、「奉仕の理念」です。

職業奉仕は、その理念を実践する重要な場です。しかし、奉仕の理念が職業奉仕の中だけにあるわけではありません。
クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕。その形は違っていても、すべての根底には、奉仕の理念が流れていると考えることができます。

明文化されているが、定義されていない
「奉仕の理念」という言葉は、ロータリーの公式文書に明記されています。
しかし、公式文書を読み進めても、「奉仕の理念とはこういうものである」と、その意味を一言で示した定義は見当たりません。
ロータリーは、これを一つの言葉で定義する代わりに、人との出会い、職業における倫理、個人生活・職業生活・社会生活での実践、そして国際理解、親善、平和へと、その広がりを示しています。
それは、奉仕の理念が、一つの定義の中に閉じ込められるものではないからかもしれません。

私自身も、「奉仕の理念とは何ですか」と問われたとき、それを一言で示すことはできません。
人のために行動すること。
相手を一人の人間として尊重すること。
自らの職業を通じて、社会に必要とされる価値を届けること。
行動を通じて、自分自身も学び、変わること。
どれも、奉仕の理念につながっていると思います。しかし、そのどれか一つだけを取り上げて、「これが奉仕の理念である」と言い切ることには、ためらいがあります。

それは、私の理解がまだ十分ではないということでもあるでしょう。
同時に、奉仕の理念そのものが、完成された定義を覚えるものではなく、日々の実践を通じて考え、深めていくものだからではないかとも思います。

「奨励し、育む」ということ

「ロータリーの目的」は、奉仕の理念を定義するのではなく、
“to encourage and foster the ideal of service”
「奉仕の理念を奨励し、これを育む」
としています。

“foster” には、時間をかけて大切に育て、その成長を促すという意味があります。
奉仕の理念は、誰かから完成された答えを与えられ、それをそのまま覚えるものではないのでしょう。
人と出会い、相手の声を聴く。
自分に何ができるかを考える。
実際に行動する。
その経験を振り返り、次の行動へつなげる。

その積み重ねによって、奉仕の理念は一人ひとりの中に育まれていくのではないでしょうか。
理念があるから行動が生まれ、行動することによって理念への理解が深まる。
それは、最初から完成された形で私たちの中にあるのではなく、実践を重ねる中で、少しずつ自分のものになっていくのだと思います。

職業奉仕の、さらに奥へ

職業奉仕は、ロータリーにとって極めて大切なものです。
しかし、「職業奉仕とは何をすることか」という説明だけでは、その本質を十分に捉えることはできないのかもしれません。

なぜ、私たちは職業に高い倫理性を求めるのでしょうか。
なぜ、自らの仕事を通じて人の役に立とうとするのでしょうか。
なぜ、職業上の知識や能力を、自分のためだけではなく、社会のためにも生かそうとするのでしょうか。

仕事には必ず相手がいます。
商品やサービスを受け取る人がいます。共に働く人がいます。取引先がいます。そして、その職業を成り立たせている地域や社会があります。
自らの職業を大切にすることは、その職業を通じて関わる人を大切にすることでもあります。
相手を尊重し、信頼に応え、自らの能力を人や社会のために生かそうとする。その振る舞いを生み出しているものこそ、奉仕の理念ではないでしょうか。

本田博己パストガバナーは、職業奉仕をロータリーの根幹として捉えてきた日本のロータリーの歩みを踏まえながら、そのさらに奥にある「奉仕の理念」に目を向けています。[2]
これは、職業奉仕の価値を小さくする考え方ではありません。
むしろ、その大切さを根底から捉え直そうとするものです。
職業奉仕そのものが根幹なのではなく、職業奉仕を生み出している奉仕の理念こそが、その根幹にあるのではないか。

ロータリーの創成期には、異なる職業を持つ会員が出会い、互いに助け合うことも大切な出発点でした。その相互扶助の中で育まれた信頼が、会員の間にとどまらず、地域社会の人々との関わりへと広がっていきます。奉仕の理念がどのように形づくられてきたのかを考えるうえで、この出発点を見落とすことはできません。

そう考えると、職業奉仕と、クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕との間に、上下や優劣を設ける必要はありません。

一言で示せないからこそ

私は、「奉仕の理念とは何か」を一言で示すことはできません。

しかし、一言で示せないからといって、それが曖昧なものだとは思いません。

一つの定義で言い切ることはできなくても、人のために行動する姿の中に、相手の尊厳を尊重する振る舞いの中に、職業を通じて信頼に応えようとする姿勢の中に、奉仕の理念を見ることはできます。

大切なのは、誰かが示した唯一の定義にたどり着くことではなく、自らの経験と行動を通じて、その意味を考え続けることではないでしょうか。

私も本田 PG の考察を手がかりに、奉仕の理念を一つの定義にまとめ上げるのではなく、それがどこから生まれ、どのように受け継がれ、私たちの振る舞いにどう現れるのかを考えてみたいと思います。

奉仕の理念は、誰かが示した答えを覚えるものなのでしょうか。

それとも、人と出会い、行動し、ともに変わっていく中で、一人ひとりが育てていくものなのでしょうか。

次章では、黄金律、アーサー・フレデリック・シェルドン、そしてロータリーの二つの標語を手がかりに、奉仕の理念の源流をたどってみたいと思います。

引用・参照資料

［1］Rotary International, Manual of Procedure 2025, “Constitution of Rotary International,” Article 4, and “Standard Rotary Club Constitution,” Article 5, “Object.”

［2］本田博己『奉仕の理念を実践しよう！』講演資料。

地区委員長紹介

	・役職 ・氏名（クラブ名） ・勤務先 ・おススメのお店（所在地）
	RLI推進委員会委員長 新井　良和（伊勢崎RC） つばめタクシー㈱ 麺屋　東風亭 （伊勢崎市今泉町）
	ロータリーの友地区委員会 委員長 後藤　圭一（桐生RC） 後藤酒店 うなぎ　たつ吉 （桐生市新宿）
	ロータリー財団委員会委員長 小林　洋樹（前橋RC） ㈱三進 讃岐うどん萩屋 （前橋市下大島町）
	ポリオプラス・資金推進委員会 委員長 水石　清治（沼田RC） ㈲フローリストみずいし 一代元　沼田店 （沼田市西倉内町）

	・役職 ・氏名（クラブ名） ・勤務先 ・おススメのお店（所在地）
	資金管理・平和フェローシップ 委員会委員長 上柿　敬一（伊勢崎中央RC） 上柿建設㈱ 焼肉　富光（伊勢崎市宮子町）
	地区補助金委員会委員長 唐沢　健二（中之条RC） ㈱歴史の杜 そばきり吾妻路 （中之条町大字伊勢町）
	グローバル補助金委員会 委員長 石川　好男（太田RC） 石川瓦工業㈱ そば処　山（足利市堀米町）
	地区入会促進小委員会委員長 関口　朋克 （高崎セントラルRC） 東栄電工㈱ スナック　ポリス（高崎市田町）

第 2 回 インターアクト委員会

● 日　時：2026年8月21日(金)　16:00～17:00
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：委員長　田原明岬(伊勢崎南RC)　副委員長　坂田　晴彦(桐生南RC)
委員　牧野英輔 (高崎RC)　委員　吉井幸広(前橋東RC)
前委員長　関口知義(前橋RC)　担当副幹事　川島　博(安中RC)
オブザーバー　元委員長　河内良範(桐生西RC)
● 報告者：地区副幹事　川島　博(安中RC)

---

8 月 21 日、前橋問屋センター会館内ガバナー事務所において、第 2 回インターアクト委員会を開催しました。

田原明岬委員長のあいさつの後、インターアクト年次大会の報告がありました。

年次大会は 265 名の参加をいただき、多くの皆様のご協力のもと、盛会のうちに終了することができました。収支についても、登録料収入の増加や経費削減に努めた結果、黒字となりました。年次大会における余剰金については、今後実施予定の海外研修事業に有効に活用していく予定です。

今後予定している海外研修事業および台湾・三重中央ロータリークラブとの国際交流事業については、過去の募集要項を参考に準備を進めておりますが、今年度の旅行代金等が確定していないため、今後、募集内容や参加費用などの詳細を検討してまいります。また、参加生徒の安全を最優先に考え、緊急時の医療対応や個人情報、写真利用等に関する同意事項についても、申請書類の見直しを進めております。

台湾との国際交流事業については、三重中央ロータリークラブとの交流に向けて協議を進めています。青少年が参加する国際交流事業であることから、RI の青少年保護に関する規定を遵守し、安全管理や保険、必要書類等について慎重に確認を行っています。

また、参加する生徒が安心して交流活動に参加できる環境を整えるため、宿泊形態についても安全面を重視し、関係者と協議を進めております。

今後は、全国委員長会議等で得られる情報や関係団体との協議結果を踏まえ、ガバナーのご判断を仰ぎながら、今年度の国際交流事業の実施に向けて準備を進めてまいります。

インターアクト活動を通じて、生徒たちが国内外の多くの人々と出会い、交流を深めることで、広い視野と国際感覚を身につけられるよう、今後も安全で充実した事業運営に努めてまいります。

引き続き、地区内ロータリアンの皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





第１回 青少年交換委員会

● 日　時：2026年8月23日(日)10:00～12:00
● 会　場：前橋問屋センター会館　ガバナー事務所
● 出席者：竹中　隆ガバナー、湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー、
櫻井正晴代表地区幹事、新井　聡青少年交換委員会委員長ほか青少年交換委員5名、
ROTEX6名、地区副幹事2名、
● 報告者：地区副幹事　飯島岳吏(安中RC)

2026年8月23日前橋問屋センター会館内ガバナー事務所にて第1回青少年交換委員会の会議が行われた。

まず初めに竹中隆ガバナーより挨拶があり、新井聡委員長より今後のスケジュール、本日の選考会についての説明があった。

今後のスケジュール

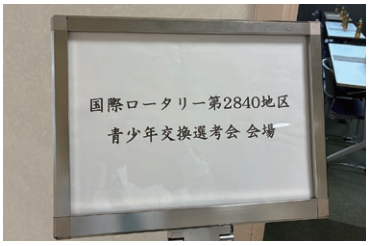
8月26日(水)　合否通知を送信(本人・学校)
9月15日(火)　長期への変更期限
9月27日(日)　帰朝報告会・歓迎会　ホテルメトロポリタン
帰朝報告会10:00～12:00、歓迎会12:00～15:00。
(湯澤年度の青少年交換留学生も呼ぶ、キャパがあれば親も)
9月27日(日)　第3回委員会会議　ホテルメトロポリタン高崎　9:30～10:00
10月9日(金)　２次募集締め切り
10月24日(土)　２次選考





2027-28 年度青少年交換派遣学生 選考会

● 日　時：2026年8月23日(日)13:30～16:50
● 会　場：前橋問屋センター会館　春夏の間
● 出席者：竹中　隆ガバナー、湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー、
櫻井正晴代表地区幹事、新井　聡青少年交換委員会委員長ほか青少年交換委員5名、
ROTEX6名、地区副幹事2名、派遣候補生6名、保護者９名
● 報告者：地区副幹事　飯島岳吏(安中RC)



2026 年 8 月 23 日前橋問屋センター会館　春夏の間で 2027-28 年度の青少年交換派遣学生選考会が行われた。

まず初めに竹中隆ガバナーより挨拶があり、青少年交換プログラムは単に外国へ行く機会ではなく学生の人生を変える可能性があると述べ、高校時代に海外で過ごす経験は後の進学・就職などの将来の選択肢や視野を大きく広げる可能性があると説明があった。そして学生本人だけでなく家族も一緒に考え、より豊かな人生につながる機会として検討してほしいと伝えた。

その後、舟木諒副委員長より選考試験に関する説明（青少年交換プログラムの詳細説明、参加費用とホストファミリーの義務、遵守すべきルールと安全対策、長期留学と留年の関係、試験・面接の実施方法と今後の流れ）があり、2024-25 年度派遣学生 高澤希空さん、2025-26 年度派遣学生 田中浩輔さんより体験報告があった。

その後、保護者には新井委員長より説明会があり、派遣候補生は作文試験、英会話面接、親子面接と各々受けた。

最後に、湯澤晃ガバナーエレクトより閉会のことばがあり閉会となった。









米山記念奨学指定校説明会

● 日　時：2026年8月26日(水)　12:40~14:00
● 会　場：前橋問屋センター会館　春夏の間
● 出席者：竹中　隆ガバナー、田中久夫米山記念奨学会常務理事、湯澤　晃ガバナーエレクト、
板橋一博ガバナーノミニー、櫻井正晴地区代表幹事、廣木晴久地区幹事、
矢内良春米山記念奨学委員長ほか米山記念奨学委員12名、
川島博米山記念奨学委員会担当副幹事、佐藤宗孝米山記念奨学委員会担当副幹事
● 報告者：米山記念奨学委員　青木貴幸(渋川RC)

竹中　隆ガバナー、田中久夫米山記念奨学会常務理事のご挨拶から今年度の指定校説明会が開催されました。

今年度は、関東学園大学・共愛学園前橋国際大学・群馬大学・高崎経済大学・群馬県立女子大学・上武大学・前橋工科大学の7校の大学にご参加頂きました。

主席者の紹介と大学関係者の自己紹介に始まり、和やかな雰囲気の中で米山記念奨学会に関するＤＶＤを上映致しました。その後、矢内良春米山記念奨学委員会委員長より詳細説明が行われました。その際にロータリーからの要望や推薦基準の確認、学生への周知の程度など大学側に質問され、大学関係者の皆様と情報共有が行われ会も順調に進行致しました。



今年も各大学からの沢山の国々からの留学生が推薦される事を期待して、湯澤　晃ガバナーエレクトの講評で閉会となりました。





クラブ活性化ワークショップ
《退会防止を考える》

● 日　時：2026年8月30日(日)13:20～16:30
● 会　場：前橋問屋センター会館2階
● 出席者：１４７名
　白鳥敬日瑚第２地域ARMC・国際ロータリー第2600地区パストガバナー
　竹中　隆ガバナー、田中久夫地区ラーニングファシリテーター
　森田高史地区ラーニング・管理運営委員会副委員長
　森　末廣地区ラーニング・管理運営委員会副委員
　湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー
　ガバナー補佐、各クラブ会長、会長エレクト、会員増強委員長、奉仕プロジェクト委員長、ほか代理出席、地区副幹事
● 報告者：地区副幹事　大谷栄義(安中RC)

---

8 月 30（日）前橋問屋センター会館において、「クラブ活性化ワークショップ」が開催されました。竹中隆ガバナーの挨拶・趣旨説明、田中久夫地区ラーニングファシリテーターのガイダンズに続き、第２地域ロータリー会員増強コーディネーター補佐白鳥敬日瑚様より「人はロータリーの会員になるのではない。『人生の柱』を見つけたとき、ロータリアンになる」をテーマに講演を頂き、グループディスカッションへと移りました。詳細は下記の通りです。

■ ロータリー「クラブ活性化ワークショップ」概要
今回のワークショップでは、会員増強だけでなく「退会防止・会員維持」を重視し、会員にとって価値があり、「このクラブにいたい」と思える魅力的なクラブづくりについて考えることがテーマとなった。

1. ■退会防止の考え方
過去の退会者へのアンケートでは、主な退会理由として次の3点が挙げられた。
1. 経済的・時間的負担が大きい
　会費が高い
　例会などに毎週参加する負担がある
2. クラブの環境や文化になじめない
　居場所がない
　人間関係や雰囲気に馴染めない
3. 入会前に期待していたロータリーとのギャップ
　「思っていたものと違った」
　活動に魅力や意義を感じられない

これらへの対応として、RIが導入しているクラブ運営の柔軟性を活用し、例会の頻度や参加方法などを各クラブの実情に合わせて見直すことが重要とされた。

2. ■「選ばれるクラブ」をつくる
単純に退会者を引き止めるのではなく、「会員を増やす」のではなく、「このクラブに入りたい」と思われるクラブをつくることが重要だと説明された。

ゴルフクラブなどの例を挙げながら、人気のあるクラブには「お金を払ってでも入りたい」と思わせる魅力があるように、ロータリークラブにも独自の価値・魅力・誇り・楽しさが必要だとされた。
特に、
楽しい
仲間とのつながりがある
自分の居場所がある
活動にやりがいを感じる
社会に貢献している実感がある
といった要素が、会員の維持や新会員の入会につながるとされた。

3. ■日本・世界のロータリー会員数の課題
世界のロータリー会員数は減少傾向にあり、特に先進国での会員減少が課題となっている。
日本でも会員数や1クラブ当たりの平均会員数が長期的に減少しており、人口減少・少子高齢化・働き方の変化など、社会環境の変化も影響していると説明された。
一方で、ドイツなどには比較的多くの会員を維持している地域もあり、単純に人口減少だけを理由にするのではなく、クラブそのものの魅力や運営方法を考える必要があるとの問題提起があった。

4. ■経済・社会環境との関係
日本のロータリー会員数の推移と、経済状況や人口構造、生産性などのデータも紹介された。
人口減少や働き方の変化によって、これまでと同じ方法でクラブを運営することが難しくなっているため、時代に合わせたロータリー活動への転換が必要との認識が示された。

5. ■今後のクラブ運営
最後に、各クラブが自分たちの特色を踏まえて、「自分たちのクラブにとって、会員が残りたいと思える理由は何か」を考えることが求められた。そのためにグループディスカッションを行い、必ずしも答えを出すことだけを目的とせず、各クラブが今後の活動に活かせるヒントを一つでも持ち帰ることを目的としてワークショップが進められた。
全体の結論
今回の中心的なメッセージは、会員増強の前に、まず「会員が辞めたくない、ここにいたい」と思えるクラブをつくること。「人数を増やす」だけではなく、クラブの魅力・居心地・やりがい・帰属意識を高めることが、結果として会員維持と会員増強の両方につながるという内容だった。

■クラブ活性化ワークショップディスカッションまとめ

1. ■防げる退会・防げない退会
防げない退会
　健康上の理由、死亡、高齢化
　会社・仕事上の都合
　経営状況の悪化
　時間的な制約 など、本人やクラブだけでは解決が難しい事情による退会。
防げる可能性のある退会
　会員同士のコミュニケーション不足
　クラブに馴染めない、居場所がない

ロータリーのことを十分理解しないまま入会
長期欠席者へのフォロー不足
役割を任されることが負担になる、または逆に役割を持てない
例会や奉仕活動に魅力・やりがいを感じられない
特に各グループで共通していたのが、**「関わり」「声かけ」「コミュニケーション」**の重要性でした。

2. ■退会防止に有効な取り組み
長期欠席者や退会を考えている会員への早期の声かけ
会長・幹事だけでなく、会員全体でフォローする
メンター・カウンセラー制度を活用する
新入会員にロータリーの理念や活動を丁寧に説明する
新入会員に経験豊富な会員が付き添い、例会や他クラブ訪問をサポートする
例会以外でも食事会、懇親会、スポーツ、飲み会などで交流する
一人になっている会員を作らない
夜間例会や場所・時間の変更など、参加しやすい環境をつくる
退会の兆候が出てからでは遅く、早期に関わることが重要という認識が共有されました。

3. ■インクルーシブなクラブ運営
「誰もがクラブの中に居場所を持ち、参加できる環境」をつくることが重要。
具体的には、
入会1～3年程度の若手会員にも役割を与える
若手を委員長にしてベテランが補佐する
新入会員を先輩会員が積極的にサポートする
女性会員の活躍・交流を促進する
家族や女性など、これまで参加しにくかった人にも参加の機会を広げる
会員同士がお互いを知る機会を増やす
会員それぞれの性格・得意不得意に合わせて役割を与える
ただし、若手に役割を与えること自体が負担となり、退会につながるケースもあるため、本人に合わせた配慮が必要との意見もありました。

4. ■会員の「やりがい」につながる奉仕活動
単に奉仕活動を実施するだけでなく、**「会員自身が参加して、成果や喜びを実感できる活動」**が重要。
事例として、
地域を巻き込んだジャズコンサート
花火大会後の清掃活動
就職希望者への模擬面接
会員全員参加型の奉仕活動
などが紹介されました。
ポイントは、一部の委員会だけで活動するのではなく、できるだけ多くの会員が参加し、「自分もクラブに貢献した」と実感できることです。





5. ■ロータリーへの所属意識・継続意識
継続して在籍するためには、ロータリーに入っていることによる**「良かった」という実感**が重要。
人脈が広がった
様々な情報を得られるようになった
新しい気づきが増えた
仲間ができた
奉仕活動を通じて地域とのつながりが生まれた
ベテラン会員との交流が楽しい
クラブで役割を持つことができた
こうした具体的な体験や人とのつながりが、継続意識につながるという意見が出ました。全8グループに共通した重要ポイント

今回の発表を総合すると、退会防止のキーワードは次の5つに集約できます。

① 関わる
会員同士が積極的に関わり、一人にしない。

② 気づく
欠席が増えた、元気がないなどの小さな変化を見逃さない。

③ 声をかける
会長・幹事だけでなく、全会員で声をかける。

④ 参加してもらう
奉仕活動や役割を通じて、クラブの一員である実感を持ってもらう。

⑤ 楽しい・居場所があるクラブをつくる
例会、食事、懇親会、奉仕活動などを通じて、「このクラブにいたい」と思える環境をつくる。

最終的な結論

今回のワークショップで最も大きな共通認識となったのは、退会防止は、退会しそうになった人を引き止めることではなく、普段から会員同士が関わり、互いを知り、居場所と役割をつくること。ということです。また、「誰かがやってくれる」のではなく、クラブ活性化は会員一人ひとりが当事者として取り組む必要があるとのまとめで閉会しました。









ロータリー財団補助金管理セミナー

● 日　時：2026年9月5日(土)　13:30〜16:45
● 会　場：前橋問屋センター会館
● 出席者：ガバナー　竹中　隆、パストガバナー　森田高史、ガバナーエレクト　湯澤　晃
ガバナー補佐　菊川善明、草処晋一、大木孝之、井汲憲治、荻原丈始、齋藤清海
青山　豊(RAC担当)
代表地区幹事　櫻井正晴、地区幹事　廣木晴久、
地区ラーニング・管理運委員　小磯正康、飯田知義
ロータリー財団委員長　小林洋樹、ロータリー財団副委員長　石井英智、
ロータリー財団委員　小林匡美
ポリオプラス・資金推進委員長　水石清治、資金管理・平和フェローシップ委員長　上柿敬一
地区補助金委員長　唐沢健二、グローバル補助金委員長　石川好男
ロータリー財団委員会各小委員会委員15名、地区副幹事6名、次年度地区副幹事3名
グローバル補助金奨学生　平林真理さん、井熊玲央さん
各クラブ　　会長、会長エレクト、ロータリー財団委員長、補助金申請担当者、事務局
ローターアクトクラブ
● 報告者：地区補助金委員長　唐沢健二(中之条RC)、地区副幹事　松岡将之(安中RC)

9月5日(土)　前橋問屋センター会館において「ロータリー財団補助金管理セミナー」が開催されました。当日はハイブリット形式で行われ、会場とZoomで総勢約170名の方が参加くださり、大変有意義なセミナーとなりました。詳細は下記の通りです。

■ガバナー挨拶　ガバナー　竹中　隆
寄付や資金調達は目的ではなく「手段」である点を再確認。
単に「何をしたか(金額や事業数)」ではなく、「それによって地域に何が変わり、何が残ったか(インパクト)」を最優先に考えてプロジェクトを企画・推進をお願いいたします。



■挨拶・趣旨説明
ロータリー財団委員会アドバイザー　森田　高史
地区補助金利用については世界の存在する地区の中でも当地区はトップクラスだと思われます。これも皆様のご協力の賜物です。今後においてもこの利用率を継続できるようご協力を求めた。



■２０２６-２０２７年度ロータリー財団委員会の計画と方針ついて
ロータリー財団委員長　小林　洋樹
地区補助金事業とグローバル補助金事業は本日の研修の受講が必須となります。

・ポリオプラス、資金推進について　ポリオプラス・資金推進委員長　水石　清治
ポリオプラス: 1人あたり年間の寄付目標達成と「ポリオプラスソサエティ」への登録と毎年の継続を求めた。

・ロータリーカードについて　ロータリーカード推進委員　石井　英智
年会費無料のロータリーカードを作成し、利用額の0.3%が支援につながるため、個人・クラブ双方での作成および利用（夜間例会や各種事業決済等）推奨を求めた。

・地区補助金について　地区補助金委員長　唐沢健二
ハンドブック: 今年度より毎年使い切りではなく「保存版」として継続管理・利用することとなり、継続性ルールの緩和: 同一の支援先・事業について「最大3年間」まで継続支援が可能（ただし4年目は必ず事業内容または支援先の変更が必要）等の変更点を説明し、口座管理・決済: 補助金専用口座を開設・継続利用し、現金払いは原則禁止。専用口座からの振り込み、または専用クレジットカード（ロータリーカード等）決済を徹底などの注意事項を説明し地区補助金動画を視聴した。

・地区補助金の資金管理について　資金管理・平和フェローシップ委員長　上柿　敬一
9月1日に補助金は送金済みであること、送金の案内に補助金等が明記されている。補助金総額を専用口座に入金するなどの資金管理の方法を説明した。

・グローバル補助金について　グローバル補助金委員長　石川　好男
グローバル補助金: 大規模プロジェクト（人道支援・奨学金・VTT等）が対象。ワールドファンドからの上乗せ（80%等）を活用可能

・グローバル補助金奨学生報告
グローバル補助金奨学生　平林真理さん、井熊玲央さん
今年度奨学生　平林さんによる現地活動・研究成果の報告、および次年度予定者井熊さんの挨拶・紹介。



■質疑応答

■講評　ガバナーエレクト　湯澤　晃

■第一部閉会（諸事連絡）　ロータリー財団委員　小林　匡美

■分区協議会　分区協議会終了後解散
分区毎に担当委員が地区補助金の確認・注意事項の説明及び本年度の事業の進捗状況並びに次年度事業の計画を確認した。

RLI セミナー Part Ⅰ

● 日　時：2026年9月6日(日)　9:30～17:00
● 会　場：前橋問屋センター会館2階
● 出席者：竹中　隆ガバナー、本田博己RLI日本支部委員長・パストガバナー、
竹内正幸RLI推進委員会アドバイザー・パストガバナー、
森田高史パストガバナー、足立　進パストガバナー、保坂充勇パストガバナー、
湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー、新井良和ＲＬＩ推進委員会委員長
ファシリテーター30名、受講者57名、ガバナースタッフ10名
● 報告者：地区副幹事　櫻井　誠(安中RC)



9月6日（日）、RLI セミナー Part Ⅰが前橋問屋センター会館で開催されました。

竹中隆ガバナー、竹内正幸 RLI 推進委員会アドバイザーの挨拶に続き、本田博己 RLI 日本支部委員長より RLI セミナー のガイダンスが行われました。

その後、受講対象者である各クラブの会長エレクトと次年度幹事は、「ロータリーにおけるリーダー シップ」、「私のロータリー世界」、「倫理と職業奉仕」、「ロータリー財団Ⅰ私たちの財団」、「会員の参加を促す」、「奉仕プロジェクトを創造する」という6つのテーマのセッションに参加しました。 各セッションでは、ファシリテーターの進行のもと受講者全員が主体的に参加していただき、自身の経験や考えを共有し、他者の意見から学ぶことで、楽しく有意義な議論が行われました。各 50 分 6 セッションを 3 回受ける RLI セミナーは、ロータリーの知識とリーダーシップスキルを対話形式で学ぶ、実践的な研修プログラムです。今回 Part Ⅰではリーダーシップの基礎やロータリーの理念など、活動の根幹となる重要なテーマを学んでいただきました。Part Ⅱ以降より応用的、専門的内容へと発展していきます。RLI セミナーの継続的な参加をお願い致します。



















第１回 RYLA・学友委員会

● 日　時：2026年9月7日(月)　14:30～16:00
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：竹中　隆ガバナー(高崎北RC)　　山田邦子アドバイザー(前橋RC)
　　委員長　藤沢真史(桐生赤城RC)　副委員長　村上大樹(伊勢崎東RC)
　　委員　　矢内良春 (伊勢崎南RC)　委員　田原明岬(伊勢崎南RC)
　　委員　　新井　聡(前橋西RC)　　委員 横山広樹(前橋RAC)
　　担当副幹事　川島　博(安中RC)
● 報告者：担当副幹事　川島　博(安中RC)

本年度の RYLA・学友委員会では、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLA、米山記念奨学事業など、各青少年プログラムの卒業生が、活動終了後もロータリーファミリーとしてつながり続ける仕組みについて、協議を重ねております。

現状といたしましては、各プログラム間の連携が十分とは言えず、特にインターアクトからローターアクトへ、さらにロータリーへとつながる機会づくりが課題となっております。そうした中、将来的には地区として学友会を組織し、情報交換やイベントへの協力など、無理のない形から交流の輪を広げていくことを確認いたしました。あわせて、名簿の整備や個人情報の適切な管理につきましても、慎重を期して検討を進めてまいる所存であります。

一方、本年度の RYLA につきましては、「仲間とつくるチームの力」をテーマに掲げ、「スポーツ鬼ごっこで学ぶリーダーシップ」を実施することといたしました。スポーツ鬼ごっこを通じて参加者同士の交流を深めるとともに、チームワークや協同する力を学び地域社会で活躍できる青少年リーダーの育成を図ることを目的として開催いたします。

開催は 2026 年 12 月 12 日（土）9：30 ～ 16：30

会場は KIRINAN BASE 体育館（旧桐生南高校体育館）

対象は 14 歳から 30 歳までの熱意ある若者（インターアクター・ローターアクター・各クラブの米山奨学生・ロータリアン企業のお勤めの方・ロータリアン家族・各クラブ推薦の高校生、大学生、一般）を予定しており、地区内各クラブの皆様には、対象となる若者の皆様への積極的なお声がけをお願い申し上げます。



第 3 回 インターアクト委員会

● 日　時：2026年9月10日(木)　16:00～17:15
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：竹中　隆ガバナー(高崎北RC)
委員長　田原明岬(伊勢崎南RC)　副委員長　坂田晴彦(桐生南RC)
委員　　牧野英輔 (高崎RC)　　委員　吉井幸広(前橋東RC)
担当副幹事　川島　博(安中RC)
オブザーバー　元委員長　河内良範(桐生西RC)
● 報告者：地区副幹事　川島 博(安中RC)

---

9 月 10 日（木）前橋問屋町センター会館内ガバナー事務所において、第 3 回インターアクト委員会を開催しました。

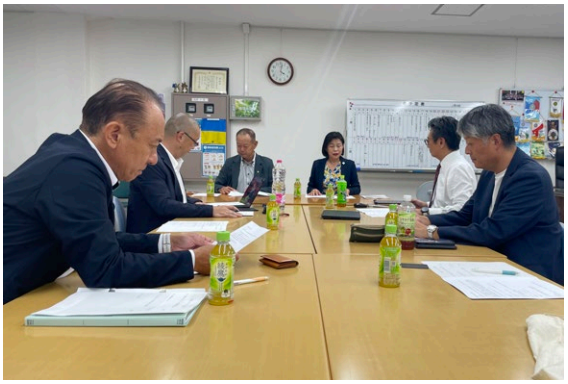
はじめに、竹中隆ガバナー、田原明岬委員長より挨拶がなされました。

今回の委員会では、海外研修事業（台湾）の実施可否をはじめ、予算・会計、今後のインターアクト活動の充実について協議しました。

台湾交流事業については、交流先である三重中央ロータリークラブから、国際ロータリーが定める青少年保護に関する基準への対応について、当初の合意内容から変更された回答が示されました。青少年の安全確保と危機管理を最優先に考え、RI の方針に準拠できない状況での事業実施は困難であるとの認識を共有しました。

今後、三重中央ロータリークラブに対し、RI の方針を遵守できるかについて最終的な確認を行い、9 月 18 日を回答期限としました。期限までに明確な回答が得られない場合には、今年度の派遣・受入事業を中止する方向で協議を進めます。中止となった場合には、関係各所へ経緯を丁寧に説明するとともに、来年度以降の新たな交流先の開拓を進めてまいります。

また、海外研修の実施状況を踏まえ、予算や会計処理、参加生徒の費用負担についても検討しました。





第１回 公共イメージ・ICT 推進委員会

～ストーリーテリングの活用とSNSガイドライン策定で、開かれたロータリーへ～

● 日　時：2026年9月16日（水）　15:00～16:30
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：竹中　隆ガバナー、田嶋宏樹公共イメージ・ICT推進委員長、
前田　修副委員長、塩谷勝利副委員長、佐藤弘之委員、茂木光男委員、長柄光則委員、
田村光三地区副幹事、清水博志次年度地区副幹事
● 報告者：地区副幹事　田村光三（安中RC）

９月16日（水）、ガバナー事務所にて「第１回 公共イメージ・ICT 推進委員会」が開催されました。竹中ガバナーをはじめとする委員長、副委員長ならびに各委員が出席し、今年度の委員会事業計画の推進に向けた具体策が協議されました。

1. ストーリーテリングキャンペーンによる「奉仕の見える化」

RI（国際ロータリー）が推進する「ストーリーテリングキャンペーン」に合わせ、当地区でも各クラブの魅力ある奉仕事業の収集・発信を強化します。前橋西 RC の児童養護施設支援や海外友好奨学金の取り組みなど、会員の想いや感動が伝わるストーリーを厳選し、地区ホームページやロータリアンカードを通じて広く一般へ発信してまいります。

2. 新聞広告およびロータリアンカードによる広報展開

2027 年 2 月 23 日の「ロータリーデー」に合わせ、上毛新聞への広告掲載を実施予定です（担当：前田副委員長）。3 月に開催される「ローターアクト全国大会」とも連携し、青少年奉仕や国際理解などをテーマに、一般市民へ刺さるメッセージを届けてまいります。また、次回地区大会（2027 年 4 月 25 日）での配布を目指し、QR コード連携を強化した新たな「ロータリアンカード」の制作も進めます（担当：塩谷副委員長）。

3. 安全な SNS 運用に向けたガイドラインの策定

地区公式の SNS（Facebook・Instagram 等）活用を推進する一方で、肖像権や個人情報（特に青少年活動）の配慮など、危機管理上の課題についても議論が交わされました。今年度は、各クラブが安全かつスムーズに情報を発信できるよう、投稿レギュレーションや承認フローを定めた「リスク管理ガイドライン」の策定に取り組んでまいります。

4. ローターアクト全国大会への支援と事務局 DX 化

今年度伊香保にて開催される「ローターアクト全国大会（3 月 20 日～ 21 日）」に対し、地区ロータリーとして広報協賛や連携事業を実施します。さらに、今年 5 月に開催された「クラブ運営管理セミナー」での成果を踏まえ、各クラブ事務局における ICT 化・DX 化の推進支援を継続してまいります。



今期委員会では、外部への効果的な PR と内部での安全な運用基盤の構築を両輪とし、ロータリーの価値を高める広報活動に努めてまいります。

群馬県ロータリー野球大会 開会式

報告者／伊勢崎中央 RC 野球部　金井勇太

2026 年 9 月 12 日（土）、前橋市の登利平桃ノ木川グラウンドにおいて 2026-2027 年度群馬県 RC 野球大会が開幕しました。今年度は前橋東、ぐんま伊勢崎、高崎、前橋、前橋西・前橋中央連合、前橋北、伊勢崎中央の計 8 クラブ 7 チームが参加のもと、開会式では幹事クラブである伊勢崎中央 RC 服部会長の挨拶に始まり、竹中ガバナーのご挨拶、前年度優勝チームの伊勢崎中央 RC による優勝カップ返還、そして今大会から初参加となったぐんま伊勢崎 RC の神崎大輔主将が選手を代表し『ロータリー精神を胸に精いっぱいプレーすることを誓います』と宣誓しました。その後、ロータリーの友情を象徴する参加者全員での集合写真撮影と竹中ガバナーによる力強い始球式が行なわれ、開会式は終了しました。

本来ならば 8 月 29 日（土）から開幕をする予定だった今大会は雨天順延の影響もあり富岡、沼田、伊勢崎南の 3 クラブが事情により大会棄権となってしまったことは残念でなりません。

開会式終了後は 1 回戦が行われ、ケガ人が出ることもなく 4 チームによる白熱した 2 試合となりました。結果は以下の通りです。

前橋東ロータリークラブ　3―10　ぐんま伊勢崎ロータリークラブ
前橋ロータリークラブ　1―11　前橋西・前橋中央ロータリークラブ

今後の大会日程は、9 月 19 日（土）に 2 回戦 1 試合、10 月 17 日（土）に準決勝 2 試合、11 月 7 日（土）に決勝戦と 3 位決定戦が行われる予定です。


伊勢崎中央RC塩屋主将より優勝カップ返還


ぐんま伊勢崎RC神崎主将による選手宣誓


竹中　隆ガバナーの始球式



竹中ガバナーを囲んで参加者全員の集合写真

国際ロータリー第 2840 地区 2026-2027 年度

ガバナー公式訪問要領

1. ガバナー公式訪問は、単独クラブ訪問とします。

2. 訪問時は、ガバナー、ガバナー補佐、及び地区幹事又は分区担当副幹事のいずれか 1 名の計 3 ～ 4 名が原則訪問します。

3. **公式訪問前クラブ協議会の実施**

   ガバナー補佐は、公式訪問前 2 週間前までに所管のクラブを訪問し、例会前後の時間等を利用してクラブ役員との協議会を実施し、各クラブの現況や課題、クラブの目標や地区運営に関する意見等について協議するとともに、公式訪問についての事前協議を行ってください。
   また、その結果を所定の様式にて公式訪問の 1 週間前までにガバナー事務所まで報告してください。上記は、数名のクラブ役員との懇談でも結構です。

4. **クラブ例会内での公式訪問の趣旨説明**

   ガバナー補佐は、公式訪問前のクラブの例会において、公式訪問の趣旨や要領、また、現状の地区運営の状況などを１０分～１５分程度、クラブ会員に対して説明し、出席を奨励してください

5. **公式訪問の進め方**

   （1）クラブ役員との懇談会〔例会前 50 分〕
   会長、幹事、会長エレクト、クラブ・ラーニング・ファシリテーター、副会長、会員増強委員長、公共イメージ委員長、クラブが課題と認識している担当委員長等、及び地区役員、インターアクト、ローターアクト提唱クラブは、各会長も出席してください。

   （2）例会
   ガバナースピーチとして２５分程度時間を割いてください。プロジェクター、スクリーンの準備をお願いします。

   （3）クラブ協議会〔例会後 60 分〕
   懇談会参加者のほか、各委員長、新入会員を義務出席とし、会員全員に出席を奨励してください。本年度は、特に地区とクラブの双方向性をキーワードとしておりますので、双方向の協議が十分できるような設営をお願いします。協議内容については以下の項目を入れてください。

   ①クラブの課題
   ②クラブの目標（特に会員増強計画）の進捗状況
   ③地区運営に関するクラブのご意見

6. **公式訪問の目的は、国際ロータリー細則に以下のように規定されています。**

   個々のクラブあるいは複数クラブ合同の例会への公式訪問を行うこと。その際には、以下を行うため、ガバナーの出席が最大限の成果を生むような機会を選ぶようにする。

   ①ロータリーの重要な問題に焦点を当て関心を持たせる。
   ②弱体クラブ、あるいは問題を抱えたクラブに関心を払う。
   ③奉仕活動参加へのロータリアンの意欲をかきたてる。
   ④クラブの定款と細則が、ロータリーの組織規程を遵守していることを確認する。
   ⑤顕著な貢献をした地区内のロータリアンをガバナー自ら表彰する。

7. 各クラブは現況報告書（4 部）を 8 月 31 日までにガバナー事務所に提出してください。
   9 月 12 日までに訪問するクラブは仮報告書を、訪問 2 週間前までに提出してください。

2026-2027年度　ガバナー公式訪問日程表

2026年 8月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 前橋北 （第 1 分区）	18	19	20 碓氷安中 （第 6 分区）	21	22
23／30	24 桐生 （第 2 分区 A）	25 伊勢崎南 （第 2 分区 B）	26	27 渋川 （第 5 分区）	28	29

2026年 9月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2 新田富 （第 4 分区 A）	3 富岡中央 （第 6 分区）	4	5
6	7	8 太田南 （第 4 分区 A）	9 桐生南 （第 2 分区 A）	10 藤岡 （第 6 分区）	11 藤岡南 （第 6 分区）	12
13	14 伊勢崎東 （第 2 分区 B）	15 渋川みどり （第 5 分区）	16 富岡 （第 6 分区）	17	18	19
20	21	22	23	24 高崎東 （第 3 分区）	25	26
27	28	29	30	31		

2026年 10月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1 館林ミレニアム （第 4 分区 B）	2 前橋西 （第 1 分区）	3
4	5	6 高崎南 （第 3 分区）	7 前橋中央 （第 1 分区）	8 沼田中央 （第 5 分区）	9 館林 （第 4 分区 B）	10
11	12	13	14 ぐんま伊勢崎 （第 2 分区 B）	15 前橋東 （第 1 分区）	16 太田中央 （第 4 分区 A）	17
18	19	20 中之条 （第 5 分区）	21 前橋南 （第 1 分区）	22	23	24
25	26 高崎 （第 3 分区）	27 沼田 （第 5 分区）	28	29	30	31

2026年 11月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4 館林東 （第 4 分区 B）	5 群馬境 （第 2 分区 B）	6	7
8	9	10 高崎セントラル （第 3 分区）	11 大泉 （第 4 分区 B）	12	13 高崎シンフォニー （第 3 分区）	14
15	16	17 桐生赤城 （第 2 分区 A）	18 伊勢崎 （第 2 分区 B）	19 太田 （第 4 分区 A）	20	21
22	23	24 前橋 （第 1 分区）	25 太田西 （第 4 分区 A）	26	27	28
29	30	31				

2026年 12月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2	3	4	5
6	7	8 富岡かぶら （第 6 分区）	9 高崎北 （第 3 分区）	10 伊勢崎中央 （第 2 分区 B）	11 桐生西 （第 2 分区 A）	12
13	14	15 安中 （第 6 分区）	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2026-2027 年度　地区主要行事予定表

日付		時間帯	項目	場　所
2026年				
7月	01(水)		竹中ガバナー事務所開設	
	11(土)	10～	第１回ガバナー諮問委員会	ホテルメトロポリタン高崎
	11(土)	13～	第４回地区ラーニング・管理運営委員会	ホテルメトロポリタン高崎
	16(木)	18:30～	<ロータリー野球大会コミッショナー会議>	ニューいづみ
	18(土)	午前	(インターアクト年次大会)	メガネのイタガキ文化ホール
	25(土)	10:00～	★ロータリー財団委員会合同会議	前橋問屋センター会館
	25(土)	15:30～	★米山記念奨学生対象ロータリーセミナー	ホテルメトロポリタン高崎
	25(土)	17:30～	★(米山学友会総会)	ホテルメトロポリタン高崎
8月	01(土)	9～	(第１回地区補助金委員会)	前橋問屋センター会館
	08(土)	13～	(ＲＬＩファシリテーター研修会)	前橋問屋センター会館
	23(日)	午後	(青少年交換派遣学生選考会)	前橋問屋センター会館
	26(水)	12～	(米山指定校説明会)	前橋問屋センター会館
	29(土)	午前	<ロータリー野球大会第１日目開会式>	前橋桃ノ木川グランド
	30(日)	13:30	～クラブ活性化ワークショップ	前橋問屋センター会館
9月	01(火)		湯澤ガバナーエレクト事務所開設	
	05(土)	午後	ロータリー財団補助金管理セミナー	前橋問屋センター会館
	06(日)	終日	(ＲＬＩセミナーPartⅠ)	前橋問屋センター会館
	12(土)	午前	<ロータリー野球大会第２日目>	前橋桃ノ木川グランド
	19(土)	午前	<ロータリー野球大会第3日目>	前橋桃ノ木川グランド
	26(土)	午前	(米山記念奨学生カウンセラー研修会)	前橋問屋センター会館
	26(土)	午後	(地区米山記念奨学セミナー)	前橋問屋センター会館
	27(日)	12:30～	(青少年交換派遣学生帰朝報告会・受け入れ学生歓迎会)	ホテルメトロポリタン高崎
10月	04(日)	終日	(ＲＬＩセミナーPartⅡ)	前橋問屋センター会館
	17(土)	午前	<ロータリー野球大会第4日目閉会式>	前橋桃ノ木川グランド
	17(土)	午前	第２回ガバナー諮問委員会	前橋問屋センター会館
	17(土)	午後	第３回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館
	17(土)	15:30～	第５回地区ラーニング・管理運営委員会	ガバナー事務所
11月	07(土)	9～	(第２回地区補助金委員会)	前橋商工会議所会館
	07(土)	午前	<ロータリー野球大会予備日>	前橋桃ノ木川グランド
	08(日)	終日	(ＲＬＩセミナーPartⅢ)	前橋問屋センター会館
	21(土)	午後	第1回ガバナー補佐会議（湯澤年度）	前橋問屋センター会館
	22(日)	14:30～	新会員セミナー	エルテラス(旧マリエール高崎)
	28(土)	午後	(米山記念奨学生選考会面接員オリエンテーション)	ホテルメトロポリタン高崎
	28(土)	夕方	(米山学友会忘年会)	ホテルメトロポリタン高崎
12月	05(土)	午後	第１回ガバナー補佐・委員長予定者合同会議（湯澤年度）	群馬会館
	05(土)	午後	第３回ガバナー諮問委員会	ロイヤルチェスター前橋
	05(土)	夕方	湯澤ガバナーエレクト壮行会	ロイヤルチェスター前橋
	12(土)	9:30～	(ＲＹＬＡ研修セミナー)	KIRINAN BASE体育館
	20(日)		(青少年交換HC・SCオリエンテーション・クリスマス会)	PROM新前橋

2026-2027年度　地区主要行事予定表

日付		時間帯	項目	場　所	
2027年					
1月	10(日)～14(木)		国際協議会（湯澤ガバナーエレクト参加）	オーランド（フロリダ州）	
	17(日)	午後	（奉仕プロジェクトセミナー）	前橋問屋センター会館	
	23(土)	終日	（米山記念奨学生選考会）	前橋問屋センター会館	
	23(土)	13:00～	（第１回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館	
2月	13(土)	午前第	第４回ガバナー諮問委員会・GE 報告会	前橋問屋センター会館	
	13(土)	午後	地区チームラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋問屋センター会館	
	21(日)	午後	青少年交換 HC・SC オリエンテーション		
	23(火･祝)		ロータリー創立記念日		
	27(土)	13:00～	（第2回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館	
	28(日)	午後	第２回ガバナー補佐･委員長予定者合同会議（湯澤年度）	前橋問屋センター会館	
3月	6(土)	17:00～	（米山記念奨学生終了式・歓送会）	ホテルメトロポリタン高崎	
	13(土)～14(日)		会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー（湯澤年度）	伊香保温泉ホテル天坊	
	20(土)～21(日)		第 39 回全国ローターアクト大会	伊香保温泉ホテル天坊	
	25(木)～28(日)		（インターアクト台湾国際交流事業・派遣）		
４月	03(土)	午前	第５回ガバナー諮問委員会前橋問屋センター会館	前橋問屋センター会館	
	03(土)	午後	第４回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館	
	03(土)	15:30～	第６回地区ラーニング・管理運営委員会	前橋問屋センター会館	
	17(土)	9:00～	（第3回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館	
	17(土)	午前	（新規米山記念奨学生カウンセラーオリエンテーション）	前橋問屋センター会館	
	17(土)	午後	（新規米山記念奨学生・カウンセラーオリエンテーション）	前橋問屋センター会館	
	17(土)	午後	（継続米山記念奨学生資格審査面談）	前橋問屋センター会館	
	23(金)～24(土)		（インターアクト台湾国際交流事業・受入れ）		
	24(土)	午後	地区リーダーシップセミナー	ホテルメトロポリタン高崎	
	24(土)	夜	ＲＩ会長代理歓迎晩餐会	ホテルメトロポリタン高崎	
	25(日)	午後	地区大会式典	群馬音楽センター	
	25(日)	夜	地区大会懇親会	ホテルメトロポリタン高崎	
			ローターアクト会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー		
			地区大会記念ゴルフ大会		
5月	15(土)	13:00～	地区補助金最終審査会	前橋商工会議所会館	
	16(日)	午後	青少年交換 HC オリエンテーション		※
	23(日)	終日	クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋商工会議所会館	※
6月	05(土)	午後	新会員セミナー		
	07(月)	14～	クラブ管理運営セミナー（湯澤年度）		
	12(土)		（ローターアクト年次大会）		
	19(土)	午後	第６回ガバナー諮問委員会	ホテルメトロポリタン高崎	
	19(土)	午後	現新地区役員合同連絡会議	ホテルメトロポリタン高崎	
	26(土)～30(水)		国際大会バルセロナ	バルセロナ	
	27(日)		（青少年交換受入学生歓迎会・派遣学生壮行会）		
			（米山記念奨学生指定校選定会議）		

※クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（湯澤年度）が上記の５月 23 日（日）に変更となりました。
※青少年交換 HC オリエンテーションが上記の５月 16 日（日）に変更となりました。

2026-2027 年度　周年行事・IM 開催予定表

2026-2027 年度　周年行事予定クラブ

年	月	日	曜日	周年	クラブ名	場　　所
2026	11	8	日	55	桐生西RC	美喜仁桐生文化会館
2027	2	27	土	60	大泉RC	太田グランドホテル(予定)
2027	3	6	土	70	太田RC	ロイヤルチェスター太田
2027	4	10	土	70	渋川RC	プレヴェール渋川
2027	4	16	金	35	太田中央RC	ダニエルハウス
2027	4	17	土	50	前橋東RC	ロイヤルチェスター前橋
2027	5	8	土	45	前橋北RC	前橋商工会議所会館
2027	5	29	土	65	高崎南RC	ホテルメトロポリタン高崎
2027	6	12	土	30	桐生赤城RC	美喜仁桐生文化会館
未定				55	太田西RC	未 定

2026-2027 年度　IM 開催予定表

年	月	日	曜日	区　　分	場　　所
2027	2	9	火	第1分区	前橋商工会議所会館
2027	2	20	土	第2分区A	桐生地域地場産センター
2027	2	15	月	第2分区B	伊勢崎プリオ
				第3分区	
				第4分区A	
				第4分区B	
2026	11	20	金	第5分区	プレヴェール渋川
2027	2	6	土	第6分区	

出席報告（8 月末日現在）・My Rotary 登録率

クラブ数	年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）
43	2007(183)	2047(194)	27(2)	9(0)	2065(196)	58(13)
	自クラブ出席率		当月出席率（メイク含む）		受入れメイク数	MyRotary 登録率（9月28日現在）
	67.3%		75.6%		132	74.72%

※純増減は年度初の会員数との対比となります。

	クラブ名	回数	自クラブ出席率	会員数（純増減は年度初数との対比となります）						メイク	出席率	受メイク入れ	MyRotary 登録率（9月28日現在）
				年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）				
第1分区	前橋	3	68.56%	123 (13)	121 (13)	1 (0)	0 (0)	122 (13)	-1 (0)	5	69.97%	0	87.80%
	前橋西	3	67.61%	54 (5)	56 (5)	6 (0)	1 (0)	61 (5)	7 (0)	3	69.67%	1	73.44%
	前橋東	3	55.41%	47 (3)	48 (3)	1 (0)	0 (0)	49 (3)	2 (0)	18	68.59%	0	77.55%
	前橋北	4	80.51%	77 (1)	78 (1)	2 (0)	0 (0)	80 (1)	3 (0)	0	80.51%	0	81.25%
	前橋南	3	65.30%	50 (3)	50 (3)	0 (0)	0 (0)	50 (3)	0 (0)	2	67.30%	0	84.00%
	前橋中央	3	69.33%	24 (5)	24 (5)	1 (0)	1 (0)	24 (5)	0 (0)	3	73.33%	0	76.00%
	合計		67.79%	375 (30)	377 (30)	11 (0)	2 (0)	386 (30)	11 (0)		71.56%	1	80.01%
第2分区A	桐生	3	66.95%	69 (10)	70 (10)	1 (0)	0 (0)	71 (10)	2 (0)	13	73.49%	3	78.87%
	桐生南	3	74.09%	36 (3)	37 (3)	0 (0)	0 (0)	37 (3)	1 (0)	8	81.76%	2	64.86%
	桐生西	3	61.91%	51 (11)	51 (11)	1 (1)	0 (0)	52 (12)	1 (1)	23	76.78%	0	88.46%
	桐生赤城	3	70.48%	41 (7)	43 (8)	1 (0)	0 (0)	44 (8)	3 (1)	20	85.50%	60	75.00%
	合計		68.36%	197 (31)	201 (32)	3 (1)	0 (0)	204 (33)	7 (2)		79.38%	65	76.80%
第2分区B	伊勢崎	3	80.93%	50 (2)	52 (3)	0 (0)	0 (0)	52 (3)	2 (1)	15	91.16%	0	96.15%
	群馬境	3	82.54%	23 (2)	23 (2)	0 (0)	0 (0)	23 (2)	0 (0)	0	82.54%	0	39.13%
	伊勢崎中央	3	73.67%	100 (10)	100 (10)	3 (1)	1 (0)	102 (11)	2 (1)	9	77.20%	0	69.61%
	伊勢崎南	3	61.11%	24 (2)	24 (2)	0 (0)	0 (0)	24 (2)	0 (0)	7	70.83%	3	100.00%
	伊勢崎東	3	65.28%	42 (3)	41 (3)	0 (0)	0 (0)	41 (3)	-1 (0)	0	65.28%	1	92.86%
	ぐんま伊勢崎	3	67.40%	34 (3)	48 (8)	0 (0)	0 (0)	48 (8)	14 (5)	0	67.40%	0	58.33%
	合計		71.82%	273 (22)	288 (28)	3 (1)	1 (0)	290 (29)	17 (7)		75.74%	4	76.01%
第3分区	高崎	4	69.96%	142 (12)	143 (12)	1 (0)	0 (0)	144 (12)	2 (0)	47	78.12%	14	55.56%
	高崎南	3	55.00%	65 (10)	65 (10)	2 (0)	0 (0)	67 (10)	2 (0)	4	57.00%	1	51.47%
	高崎北	3	49.57%	79 (1)	79 (1)	2 (0)	1 (0)	80 (1)	1 (0)	25	60.43%	4	61.25%
	高崎東	3	59.53%	29 (4)	29 (4)	0 (0)	0 (0)	29 (4)	0 (0)	11	72.62%	0	72.41%
	高崎シンフォニー	3	70.37%	46 (10)	46 (10)	0 (0)	0 (0)	46 (10)	0 (0)	10	77.78%	0	100.00%
	高崎セントラル	3	65.63%	32 (1)	32 (1)	0 (0)	0 (0)	32 (1)	0 (0)	12	78.13%	0	59.38%
	合計		61.68%	393 (38)	394 (38)	5 (0)	1 (0)	398 (38)	5 (0)		70.68%	19	66.68%

クラブ名		回数	自クラブ出席率	会員数 （純増減は年度初数との対比となります）						メイク	出席率	受入れメイク	MyRotary登録率 (9月28日現在)
				年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）				
第4分区A	太田	3	48.25%	67 (3)	67 (3)	0 (0)	0 (0)	67 (3)	0 (0)	1	48.75%	0	98.51%
	太田西	3	82.81%	11 (1)	11 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (1)	0 (0)	4	100.00%	0	63.64%
	太田南	3	55.33%	49 (5)	48 (5)	2 (0)	0 (0)	50 (5)	1 (0)	10	62.00%	1	94.00%
	新田	3	55.00%	20 (3)	20 (3)	0 (0)	0 (0)	20 (3)	0 (0)	3	57.89%	0	45.00%
	太田中央	3	56.50%	48 (7)	52 (8)	0 (0)	1 (0)	51 (8)	3 (1)	1	57.15%	2	84.31%
	合計		59.58%	195 (19)	198 (20)	2 (0)	1 (0)	199 (20)	4 (1)		65.16%	3	77.09%
第4分区B	館林	3	79.16%	49 (4)	49 (4)	0 (0)	0 (0)	49 (4)	0 (0)	3	81.38%	0	85.71%
	大泉	3	66.32%	23 (3)	24 (3)	0 (0)	0 (0)	24 (3)	1 (0)	4	75.44%	0	20.83%
	館林東	2	91.67%	9 (1)	9 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (1)	0 (0)	1	100.00%	0	44.44%
	館林ミレニアム	2	63.69%	27 (1)	27 (1)	0 (0)	0 (0)	27 (1)	0 (0)	5	75.83%	0	100.00%
	合計		75.21%	108 (9)	109 (9)	0 (0)	0 (0)	109 (9)	1 (0)		83.16%	0	62.75%
第5分区	渋川	3	67.25%	60 (8)	60 (8)	0 (0)	0 (0)	60 (8)	0 (0)	41	92.98%	1	66.67%
	沼田	2	76.66%	68 (3)	70 (3)	0 (0)	0 (0)	70 (3)	2 (0)	3	78.30%	33	98.57%
	中之条	4	86.85%	16 (0)	17 (0)	1 (0)	1 (0)	17 (0)	1 (0)	0	86.85%	0	47.06%
	沼田中央	3	60.54%	48 (3)	51 (4)	1 (0)	1 (0)	51 (4)	3 (1)	59	100.00%	0	92.16%
	渋川みどり	3	49.04%	45 (6)	45 (6)	0 (0)	0 (0)	45 (6)	0 (0)	9	55.63%	5	95.56%
	合計		68.07%	237 (20)	243 (21)	2 (0)	2 (0)	243 (21)	6 (1)		82.75%	39	80.00%
第6分区	富岡	3	82.08%	44 (3)	45 (3)	1 (0)	2 (0)	44 (3)	0 (0)	4	85.16%	0	58.70%
	藤岡	3	72.58%	42 (3)	42 (3)	0 (0)	0 (0)	42 (3)	0 (0)	8	79.04%	0	80.95%
	安中	3	43.02%	55 (2)	55 (2)	0 (0)	0 (0)	55 (2)	0 (0)	34	77.57%	0	54.55%
	富岡中央	3	80.21%	35 (3)	36 (3)	0 (0)	0 (0)	36 (3)	1 (0)	5	84.94%	0	72.22%
	碓氷安中	2	55.55%	7 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	2 (0)	0	55.55%	1	66.67%
	藤岡南	2	84.85%	17 (0)	19 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (1)	2 (1)	2	90.91%	0	68.42%
	富岡かぶら	3	43.33%	29 (3)	31 (4)	0 (0)	0 (0)	29 (4)	2 (1)	15	60.00%	0	48.39%
	合計		65.95%	229 (14)	237 (16)	1 (0)	2 (0)	236 (16)	7 (2)		76.17%	1	64.27%

新会員紹介



氏　名　**北爪　功**
クラブ　前橋
入会日　2026年98日
職業分類　銀行
勤務先　㈱東和銀行
役　職　代表取締役頭取
推薦者　三輪 斉



氏　名　**武藤 礼浩**
クラブ　前橋東
入会日　2026年8月20日
職業分類　製造
勤務先　㈱マティーニ
役　職　代表取締役社長
推薦者　丸橋 雄太



氏　名　**安田 厚久**
クラブ　伊勢崎中央
入会日　2026年8月6日
職業分類　商業銀行
勤務先　東和銀行 伊勢崎支店
役　職　支店長
推薦者　服部 忠夫



氏　名　**新井 千明**
クラブ　伊勢崎中央
入会日　2026年8月20日
職業分類　総合建築業
勤務先　㈱タスク
役　職　代表取締役
推薦者　小林 正弘、髙野 こずえ
吉田 尚弘



氏　名　**宮本 香織**
クラブ　伊勢崎中央
入会日　2026年8月20日
職業分類　保険業
勤務先　大樹生命保険㈱
役　職　組織長
推薦者　羽鳥 基宏、服部 忠夫



氏　名　**前原 園実**
クラブ　伊勢崎東
入会日　2026年9月1日
職業分類　金属製建具
勤務先　新協和産業㈱
役　職　取締役
推薦者　岩瀬 正範、小島 克也



氏　名　**下境 規久**
クラブ　高崎
入会日　2026年8月1日
職業分類　信用金庫
勤務先　高崎信用金庫
役　職　常務理事
推薦者　市川 豊行、岡本 謙一



氏　名　**石井 一寛**
クラブ　高崎南
入会日　2026年8月4日
職業分類　司法書士
勤務先　石井・小島合同
司法書士事務所
役　職　代表
推薦者　西川 正、原澤 一壽



氏　　名　**赤尾 兼司**
クラブ　高崎南
入会日　2026年8月18日
職業分類　管工事業
勤務先　熊井戸工業㈱
役　　職　取締役副社長
推薦者　菊池 仁美、竹内 一普



氏　　名　**吉浜 貴之**
クラブ　高崎南
入会日　2026年9月8日
職業分類　工業製品販売
勤務先　正栄産業㈱
役　　職　代表取締役社長
推薦者　千輝 太一



氏　　名　**秋元秀明**
クラブ　高崎北
入会日　2026年8月13日
職業分類　商業銀行
勤務先　㈱東和銀行
役　　職　執行役員 高崎支店長兼 高崎南支店長
推薦者　安藤 震太郎



氏　　名　**松本 純治**
クラブ　高崎北
入会日　2026年8月26日
職業分類　信用金庫
勤務先　高崎信用金庫
役　　職　本店営業部 部長
推薦者　滝澤 政吉



氏　　名　**石川 和軌**
クラブ　太田南
入会日　2026年8月12日
職業分類　建設設備業
勤務先　新和設備株式会社
役　　職　代表取締役
推薦者　清水 育男



氏　　名　**松島 輝樹**
クラブ　太田南
入会日　2026年8月12日
職業分類　総合建設
勤務先　関東建設工業株式会社
役　　職　常務取締役
推薦者　高橋 孝明



氏　　名　**宮本 孝文**
クラブ　富岡
入会日　2026年8月26日
職業分類　眼科医
勤務先　医療法人 明瞳会
役　　職　理事長
推薦者　伊藤 好則



氏　　名　**粕加屋 望**
クラブ　富岡
入会日　2026年9月2日
職業分類　都市ガス供給
勤務先　㈱エネクル エネクル富岡
役　　職　所長
推薦者　磯田 哲也



氏　　名　**黒澤　亮**
クラブ　藤岡南
入会日　2026年7月17日
職業分類　保険
勤務先　㈲キックスコーポレーション
役　　職　代表取締役
推薦者　渡邉 仁基

新会員入会実績報告（8月末日現在）

クラブ名	年度初	新会員　入会目標	新会員　入会実績	達成率	目標残
43	**1973**	**138**	**64**	**46%**	**74**

	クラブ名	年度初	入会目標	入会実績	目標残	達成率
第1分区	前橋	123	2	3	-1	150.0%
	前橋西	54	2	8	-6	400.0%
	前橋東	47	5	2	3	40.0%
	前橋北	77	3	3	0	100.0%
	前橋南	50	5	0	5	0.0%
	前橋中央	24	3	1	2	33.3%
	合計	**375**	**20**	**17**	**3**	**85.0%**
第2分区A	桐生	69	4	2	2	50.0%
	桐生南	36	5	1	4	20.0%
	桐生西	51	4	2	2	50.0%
	桐生赤城	41	2	3	-1	150.0%
	合計	**197**	**15**	**8**	**7**	**53.3%**
第2分区B	伊勢崎	50	10	2	8	20.0%
	群馬境	23	3	0	3	0.0%
	伊勢崎中央	100	2	4	-2	200.0%
	伊勢崎南	24	3	0	3	0.0%
	伊勢崎東	42	2	0	2	0.0%
	ぐんま伊勢崎	34	10	14	-4	140.0%
	合計	**239**	**20**	**6**	**14**	**30.0%**
第3分区	高崎	142	10	2	8	20.0%
	高崎南	65	5	2	3	40.0%
	高崎北	79	3	3	0	100.0%
	高崎東	29	5	0	5	0.0%
	高崎シンフォニー	46	3	0	3	0.0%
	高崎セントラル	32	2	0	2	0.0%
	合計	**393**	**28**	**7**	**21**	**25.0%**

	クラブ名	年度初	入会目標	入会実績	目標残	達成率
第4分区A	太田	67	5	0	5	0.0%
	太田西	11	1	0	1	0.0%
	太田南	49	2	3	-1	150.0%
	新田	20	2	0	2	0.0%
	太田中央	48	2	4	-2	200.0%
	合計	**195**	**12**	**7**	**5**	**58.3%**
第4分区B	館林	49	5	1	4	20.0%
	大泉	23	4	1	3	25.0%
	館林東	9	3	0	3	0.0%
	館林ミレニアム	27	1	0	1	0.0%
	合計	**108**	**13**	**2**	**11**	**15.4%**
第5分区	渋川	60	3	0	3	0.0%
	沼田	68	3	2	1	66.7%
	中之条	16	1	2	-1	200.0%
	沼田中央	48	6	4	2	66.7%
	渋川みどり	45	2	0	2	0.0%
	合計	**237**	**15**	**8**	**7**	**53.3%**
第6分区	富岡	44	3	2	1	66.7%
	藤岡	42	2	0	2	0.0%
	安中	55	2	0	2	0.0%
	富岡中央	35	2	1	1	50.0%
	碓氷安中	7	2	2	0	100.0%
	藤岡南	17	2	2	0	100.0%
	富岡かぶら	29	2	2	0	100.0%
	合計	**229**	**15**	**9**	**6**	**53.3%**

＊上記の数値は新会員入会者のみの目標および実績を表記しております。退会者数はカウントしておりません。
よって各クラブの現在の会員数を示すものではありません。

ガバナーコラム 01

なぜ今、「予防」なのか
― 国際ロータリーからの新しい問い ―

国際ロータリーから、2026-27 年度「世界を変える行動人」の表彰として、「予防の推進者（Champions of Prevention）」という言葉が示されました。〔1〕

「予防」。
ロータリーの奉仕を考える言葉として、私は少し新鮮に感じました。
なぜ今、国際ロータリーはこの言葉を私たちに示したのでしょうか。

ここでいう「予防」は、単に問題が起きないようにすることではありません。
地域社会で起こる問題を未然に防ぐため、その根本的な原因に取り組み、持続可能な解決策を生み出すことが示されています。〔1〕

RI の公式資料では、その内容がさらに具体的に示されています。
underlying causes ― 根本原因
early interventions ― 早期の働きかけ
community priorities ― 地域社会の優先課題
collaboration ― 協働
measurement ― 測定
impact ― インパクト
sustainability ― 持続可能性〔2〕

何が問題なのかを地域社会とともに考え、その背景にある原因を見る。
深刻になる前に働きかける。
一つの組織だけで抱えるのではなく、必要な人や組織と協働する。
そして、何を行ったかだけではなく、何が変わったのかを確かめ、その変化が続いていくことまで考える。

私はこれを、新しい奉仕活動を始めなさいという呼びかけだけでは受け取っていません。
むしろ、いま取り組んでいる問題の原因まで考えてみませんか、という問いだと思っています。

起きた問題に応える。その一歩前へ
目の前で困っている人に手を差し伸べる。災害が起きれば支援する。地域に課題があれば、それに応える。

どれも大切なロータリーの奉仕です。
そこからさらに「なぜ、その問題が起きているのか」と考えると、見えてくるものが少し変わります。

なぜ、この問題は繰り返されているのか。
深刻になる前に、できることはなかったのか。
その背景にある要因を、地域の人たちはどう捉えているのか。

「予防の推進者」の評価基準にも、こうした視点が表れています。
地域社会の課題をどのように特定し、その根本原因をどう分析したのか。
深刻になる前にどのような働きかけを行い、地域社会とともに必要性を確認したのか。
他の組織や関係者とどう協働し、成果とインパクトをどう測定したのか。
そして、プロジェクト終了後も効果が続くのか。そこまで示されています。〔2〕

募金や物資の提供を中心とするだけではなく、その先の変化まで問われているのです。〔2〕
「何をしたか」だけではなく、「その結果、何が変わったのか」。

「予防」は、ロータリーだけの役割ではない

「予防」は、ロータリーだけが担うものではありません。

貧困、紛争、疾病、教育、環境、孤立、格差。
その根本原因まで考えれば、一つの組織だけで解決できないことがわかります。行政や政治が、制度や政策によって担うことがあります。
企業にできることがあります。学校や地域のさまざまな団体にできることがあります。そして、一人ひとりの市民にもできることがあります。
社会や政治においても、問題が深刻になる前に働きかけることは大切です。

原因を見つけ、制度や環境を整え、問題が起きにくい社会をつくる。
防災、医療、福祉、教育、貧困、環境、そして平和。
分野は違っても、起きた問題への対応とともに、その原因や環境に働きかける役割があります。

そのためには、一つの制度や組織に任せきりにはできません。
行政や政治、企業、学校、地域社会、そして市民が、それぞれの役割を持ってつながることが必要です。

その中に、ロータリーもいる。

社会のすべての課題を担う必要はないと思います。

では、その中でロータリーには何ができるのでしょうか。
地域に入り、人の声を聴く。
異なる立場の人をつなぐ。
会員それぞれが職業を通じて培ってきた知識や経験を生かす。
課題を見つけ、必要な人たちと一緒に考え、行動する。

こうした関わり方に、ロータリーの持ち味があるのではないでしょうか。
RI が「予防」とともに collaboration ― 協働を重視していることも、その意味で大切だと思います。〔2〕
ロータリーだけで答えを出そうとせず、異なる役割を持つ人たちと一緒に考える。

「予防」は突然出てきたのだろうか

では、この考え方は突然出てきたものなのでしょうか。

ここで、国際ロータリーの Action Plan（行動計画）をもう一度見てみたいと思います。
現在の Action Plan には、四つの優先事項があります。〔3〕

より大きなインパクトをもたらす。参加者の基盤を広げる。参加者の積極的なかかわりを促す。適応力を高める

RI は、この Action Plan について、これまでの成功を礎としながら将来の方向性を定め、ロータリーが今後も成長を続け、人びとをつなぎ、「末永く続く変化をもたらす」ためのものとしています。〔3〕

今回の「予防」と特につながるのが、「より大きなインパクトをもたらす」という考え方です。
Action Plan の策定に携わった RI 戦略計画委員会のメンバー、フランシス・ツスビラ（**Francis "Tusu" Tusubira**）氏は、真のインパクトについて、プロジェクトを行っている間だけの成果ではなく、その活動を超えて続いていくものだと説明しています。〔4〕

そのためには、奉仕のとらえ方を変える必要があるとツスビラ氏は言います。
地域社会に「何を与えるか」だけではない。
私たちが去った後も、地域社会が自らプロジェクトを引き継ぎ、自力で変化をもたらしていけるかどうか。
優れたプロジェクトとは、持続可能な変化のきっかけとなるものだという考え方です。〔4〕

地域を見る視点についても、示唆があります。
「この地域の問題は何か」と問うだけではなく、その地域がすでに持っている強みを生かす。
そして、変化を生み出していくために、的を絞って取り組むことのできる「ツボ」を見つける。
RI 公式日本語版では、このように表現されています。〔4〕

また、成果を測定することについても、何を開始し、何を継続し、何を終了する必要があるのかを、より適切に判断するために必要だとしています。〔4〕

「インパクト」と「予防」
今回の「予防」は、突然現れたまったく新しい考え方ではないように思います。

これまでロータリーが重視してきた、
インパクト。
地域社会の主体性。
協働。
測定。
持続可能性。
そして、変化への適応。

こうした考え方と、今回示された「予防」は重なります。私はそのように受け止めています。

もちろん、RI が「Action Plan の次は予防である」と示しているわけではありません。
それでも、地域社会とともに原因を探り、変化が続くかを確かめるという姿勢には、これまでの歩みとのつながりを感じます。〔2〕

奉仕を見る視点が、少しずつ広がっているのかもしれません。

なぜ今、「予防」なのか

答えを一つに決める必要はないと思います。

ただ、この言葉を、病気や災害などを未然に防ぐという狭い意味だけでは受け取りたくありません。

起きた問題に応えることは、これからも必要です。そのうえで、一歩前にも目を向けてみる。

なぜ、問題が起きるのか。深刻になる前に、できることはないのか。

その地域には、すでにどのような力があるのか。

ロータリーだけでなく、誰と一緒に考えることができるのか。

そして、奉仕による変化は、活動を終えた後にも続いていくのか。

「予防」は、新しい奉仕の分野ではなく、私たちが奉仕を見る視点を少し変えるための言葉なのかもしれません。

この言葉をきっかけに、それぞれのクラブで、自分たちの奉仕をもう一度考えてみませんか。

参考資料・出典

〔1〕国際ロータリー「2026-27年度『世界を変える行動人』の表彰：予防の推進者」2026年9月。
〔2〕国際ロータリー「ロータリー『世界を変える行動人』の表彰―2026-27年度『世界を変える行動人：予防の推進者』」。
〔3〕国際ロータリー「ロータリーのビジョンとエッセンスの声明―ロータリーの行動計画」Rotary Brand Center。
〔4〕国際ロータリー「より大きなインパクトをもたらす：ツスビラさんにお聞きしました」。

ガバナーコラム 02

ローターアクトを、もう一歩考える

― 私たちは、どんな関係をつくるのか ―

前稿「ローターアクトを、もう一度考える」では、リブランディングという視点から、ローターアクトが持つ可能性について考えました。

ローターアクトクラブ自身が Rotary であり、自ら Rotary を語り、姿で示す主体であること。

そして、ロータリークラブとは違う感性、言葉、行動のスタイル、社会との接点を持つことが、社会から見える Rotary の幅を広げていくのではないか。

前稿では、そんな問いを投げかけました。今回は、その先にある関係を考えてみたいと思います。

ローターアクトに違いがあることを認める。その違いを生かしてほしいと考える。

では、私たちロータリアンの側は、どうあるべきなのでしょうか。

ローターアクトをどう見せるか、ではありません。ローターアクトに何をしてもらうか、でもありません。

私たちは、ローターアクトとどんな関係をつくるのか。

第 2840 地区の運営にも反映してきた私自身の考えを振り返りながら、この問いに向き合いたいと思います。

ローターアクトの位置づけが変わった

国際ロータリーにおけるその位置づけは、この数年で大きく変わりました。

2019 年の規定審議会を一つの契機として、ローターアクトクラブは従来の「プログラム」という枠を超え、国際ロータリーの会員種類の一つとして位置づけられるようになりました。〔1〕

その後、年齢上限が撤廃され、ローターアクトクラブ自身の主体性と柔軟性がより重視されるようになりました。2022 年からは国際ロータリーへの人頭分担金も導入され、一定の条件を満たせばグローバル補助金の提唱者となる道も開かれています。〔2〕

ロータリークラブとローターアクトクラブとの関係についても、「奉仕のパートナー」という考え方が示されています。

私は、この変化を単なる制度変更として捉えてはいません。ロータリークラブがローターアクトを指導し、育てるという一方向の関係から、それぞれが主体性を持ちながら、ともに活動する関係へ。私は、その方向が示されたものだと考えています。

それでも、まだ移行の途中にある

一方で、制度が変われば、それですべてが整理されるわけではありません。

年齢上限がなくなった中で、ロータリークラブとローターアクトクラブは何が違うのか。それぞれのクラブの独自性を、どこに求めるのか。会費を負担する会員組織となったローターアクターに、どのような価値や会員体験があるのか。

そして、両者はどのような関係をつくっていくのか。

2025 年の規定審議会でも、ローターアクトの年齢制限をめぐる提案が議論され、採択には至

りませんでした。〔3〕
私たち第 2840 地区の活動指針にも、RI におけるローターアクトクラブの地位が変更され、「まだまだ移行期間」との認識を示しています。〔4〕

私は、まさにそうなのだと思います。国際ロータリーも、各地区も、そしてローターアクト自身も、新しい位置づけの中で模索を続けている。だからこそ、「RI がこう決めたから」で終わるのではなく、私たちはローターアクトとどんな関係をつくりたいのかを、自分たちで考える必要があります。

「支援する」という関係を考え直す
ローターアクトとの関係を語るとき、私たちはよく「支援」という言葉を使います。

もちろん、支援は必要です。
ロータリアンが持つ経験やネットワークを生かせる場面もたくさんあります。
しかし、「支援する側」と「支援される側」という役割に固定されてしまえば、ローターアクトの主体性を生かしにくくなります。

だからといって、「自立した組織なのだから、すべて自分たちでやってください」ということでもありません。支えることと、任せること。任せることと、手を離すこと。
その間をどうつくるのか。私は、そこが大切だと思っています。

ローターアクト自身が考える。自分たちで決める。自分たちで動く。そして、必要なときにはロータリアンが支える。困ったときには一緒に考える。

一方が一方を動かすのではなく、それぞれの役割を持ちながら関わる。そんな関係をつくりたいと思っています。

第2840地区で、形にしてみる
こうした考えから、今年度、第 2840 地区の組織を少し変えました。

地区内 8 つのローターアクトクラブを一つのグループとして位置づけ、ガバナー補佐を配置しました。〔5〕
そして、ローターアクト地区連絡協議会を地区運営に関わる組織として位置づけました。
地区ローターアクト代表が議長を務め、地区役員と各ローターアクトクラブ会長が集まり、クラブ間の情報共有、合同事業、地区行事、全国大会への協力、地区ロータリーとの連携などについて、自分たちで話し合い、調整していく。
協議会の使命にも、「各クラブの主体性を尊重しつつ」、地区ローターアクト委員会、地区ロータリーとの協働を進めることを掲げています。〔6〕

一方、ロータリアンで構成する地区ローターアクト委員会は、ローターアクトクラブへの助言や支援を行い、提唱ロータリークラブとローターアクトとの相互理解を深める連携役としています。〔注 7〕

ここで意識したのは、ローターアクトのことを、ロータリアンだけで決めないということです。
ローターアクト自身が考え、話し合い、動くことのできる場をつくる。地区は、それを動かすのではなく、必要なところを支える。

主役を入れ替えたというより、それぞれの役割を整理した。私は、そのように考えています。

本当に変えたいのは、組織図ではない

しかし、ここが一番大切です。

地区連絡協議会を位置づけた。ガバナー補佐を配置した。役割を整理した。それだけで、何かが変わるわけではありません。

組織図は変えられます。規則も変えられます。役職もつくれます。けれども、それだけでは、人と人との関係までは変わりません。

今年度の見直しで、私たちはその出発点をつくりました。けれども、本当に変えたいのは、組織図ではありません。

関係です。

ロータリアンが考え、ローターアクターが参加する。ロータリアンが教え、ローターアクターが学ぶ。ロータリアンが支援し、ローターアクターが支援される。

そうした関係が必要な場面は、これからもあるでしょう。

しかし、それだけではない関係をつくりたい。そのために組織を変えたのだと思っています。

「主体性を尊重する」とは

では、主体性を尊重するとは、どういうことでしょうか。

何でも自由にやってもらうことではないと思います。反対に、私たちが用意した枠の中で自由にやってもらう、ということでもありません。

こちらが会議をつくる。こちらがテーマを決める。こちらが事業を企画する。そこにローターアクターを呼んで、意見を聞く。

それだけで、本当に主体性を尊重したことになるでしょうか。

私は、意見を聞くところから、もう一歩進めたいと思います。

一緒に問いをつくる。

何をするのか、だけではない。何が必要なのか。誰のためにするのか。なぜ、それをするのか。それぞれに何ができるのか。

答えを先に用意せず、そこから始める。ローターアクト自身の意見がある。役割がある。

そして、自分たちで決められることがある。私たちロータリアンにも、経験を生かしてできることがある。どちらか一方に合わせるのではなく、それぞれが持つものを持ち寄る。

私は、そこに「主体性を尊重する」ということの意味があるように思います。

「奉仕のパートナー」を、実際の関係へ

国際ロータリーが示す「奉仕のパートナー」という言葉には、制度上の位置づけを超えた意味を持たせたいと思います。

企画から実行、振り返りまでを、ともに担う。それぞれの役割を持つ。

ロータリアンがすべてを決めるのでもない。ローターアクターにすべてを任せるのでもない。
互いに持っているものを生かし、必要なところを補い合う。
支援する、支援されるという関係から、ともにつくる関係へ。

例えば、RYLA もその一つかもしれません。ロータリアンが企画し、若い人たちに参加してもらうだけではなく、ローターアクトが企画や運営の段階から関わる。

地区は必要なところを支える。ロータリアンは経験やネットワークを提供する。ローターアクター自身も考え、動く。

地区大会でも、奉仕活動でも、研修でも、同じような可能性があると思います。
大切なのは、ローターアクトに何かを任せることそのものではありません。最初から同じテーブルにつくこと。

そこから、「奉仕のパートナー」という関係が始まるのではないでしょうか。

違いを残したまま、つながる

前稿では、ローターアクトならではの感性や行動のスタイルが、Rotary の可能性を広げるのではないかと書きました。
今回、関係のつくり方を考えてみて、やはり大切なのはその「違い」なのだと思います。
ロータリーとローターアクトを同じものにする必要はありません。ローターアクトをロータリークラブに近づけることが、目的でもありません。
違いは、残していい。

それぞれにクラブの文化があり、それぞれの活動があり、それぞれの関わり方があっていい。違いをなくすのではなく、違いを持ったままつながる。そして、その違いがあるからこそ、お互いに持っていないものを持ち寄ることができる。

私は、そんな関係をつくりたいと思っています。

ローターアクトにも、ロータリーを開く

私は今年度、「ロータリーを開く」という言葉を掲げています。

ローターアクトとの関係も、その一つだと思います。
ローターアクトにロータリーを理解してもらうだけではない。私たちも、ローターアクトを理解する。ロータリーのやり方を伝えるだけではない。私たちも、ローターアクトの考えに耳を傾ける。ローターアクトをこちらへ呼ぶだけではない。
私たちも、ローターアクトの側へ近づいてみる。
一方向ではなく、双方向へ。

今年度、第 2840 地区では、そのきっかけとなる場を設けました。けれども、組織を変えることは始まりにすぎません。
その組織の中で、どんな関係をつくるのか。
そこが、これからです。

ローターアクトを、もう一歩考える。
最後に残る問いは、やはりここです。
私たちは、ローターアクトとどんな関係をつくるのか。

「ロータリーを開く」ということを、ローターアクトとの関係の中でも、少しずつ形にしていきたいと思います。

出典

〔1〕Rotary International, “Recent Rotaract Policy Updates.”
2019年規定審議会におけるローターアクトクラブの位置づけ変更。
〔2〕Rotary International, “Recent Rotaract Policy Updates”; Rotary International, “Rotaract Clubs.”
年齢上限撤廃、RI人頭分担金、グローバル補助金への参加、ローターアクトクラブの主体的運営等。
〔3〕Rotary International, “2025 Council on Legislation Daily Recaps.”
2025年規定審議会におけるローターアクトの年齢制限に関する審議。
〔4〕国際ロータリー第2840地区『2026－2027年度 地区組織編成と活動指針』「ローターアクト委員会」。
〔5〕同『2026－2027年度 地区組織編成と活動指針』「ガバナー補佐」。
〔6〕国際ロータリー第2840地区『ローターアクト地区連絡協議会 2026－2027年度活動方針』。
〔7〕国際ロータリー第2840地区『ローターアクト委員会 2026－2027年度活動方針』。

ガバナーコラム 03
公共イメージを、もう一度考える
― 人から人へ伝わるロータリーの価値 ―

9 月のガバナー月信に「ローターアクトを、もう一度考える」を掲載しました。今回は、前稿から公共イメージに絞って、もう一度考えてみます。

「公共イメージ」という言葉を聞くと、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。
ホームページ、SNS、新聞記事、活動の写真。ロータリーのロゴやデザイン。あるいは「世界を変える行動人（People of Action）」というメッセージ。

もちろん、どれも大切です。
私たちが何をしているのかを知っていただかなければ、ロータリーの活動は地域になかなか伝わりません。よい活動をしているだけで、その価値まで自然に伝わるわけでもありません。
だから、「伝える」ことは必要です。

けれども私は、公共イメージについて考えるとき、その一歩手前にあるものを、もう一度考えてみたいと思っています。
私たちは、何を伝えたいのでしょうか。

活動でしょうか。
実績でしょうか。
ロータリーという名前でしょうか。

それとも、その活動の中にある、私たちの考え方や姿勢なのでしょうか。

「見せる」ことから始めない
公共イメージというと、「どう見せるか」という話になりがちです。

しかし、どれほどきれいな写真を使い、どれほど上手な文章を書いても、実際の活動や会員の振る舞いとかけ離れていれば、そこに信頼は生まれません。
反対に、地域の人たちと一緒になって課題を考え、必要とされる活動を積み重ねているクラブには、その姿そのものに伝える力があります。

公共イメージとは、私たちが一方的につくって外へ示す「像」だけではない。
私たちが何をしているか。
誰と、どのように関わっているか。
そこで会員がどのように振る舞っているか。

そうした姿を見た地域の人たちの中に、少しずつ形づくられていくものでもあるのではないでしょうか。
だとすれば、公共イメージを考えることは、広報の方法を考えることだけではありません。

その前に、
私たちは、どのようなロータリーでありたいのか。
そこから考える必要があります。

ロータリーにとってのブランドとは

最近は「ブランディング」という言葉もよく使われます。

ロータリーにもブランドがあります。

ロゴを正しく使うこと。色や書体を統一すること。一貫したメッセージを発信すること。世界中にクラブを持つロータリーにとって、それらは大切です。

しかし、それだけがブランドでしょうか。

私は、120 年以上続いてきたロータリーにとって、ブランドの根底にあるものは、長い時間をかけて積み重ねてきた信頼ではないかと思っています。

地域で活動すること。
約束を守ること。
職業を通して社会に責任を持つこと。
異なる考えを持つ人とも対話すること。
誰かのために行動すること。

そして、それを一度きりではなく、続けていくこと。

そうした営みを続ける中で、「ロータリー」という名前に少しずつ意味が与えられてきたのではないでしょうか。

そう考えると、ブランディングとは、ロータリーを実際以上によく見せることではありません。

ロータリーが大切にしてきた価値と、今の私たちの活動や振る舞いを一致させ、それをきちんと社会へ伝えていくこと。

そこに、ロータリーのブランディングの意味があるように思います。

そして、ロゴを統一することと、クラブの個性をなくすことは同じではありません。

同じロータリーであっても、地域は違います。クラブの歴史も、会員も、地域から求められていることも違います。

共通するロータリーの価値を大切にしながら、それぞれのクラブらしい活動をする。

「揃えるもの」と「それぞれであってよいもの」。

その両方を大切にしたいと思います。

「広く知らせる」だけでよいのだろうか

もう一つ、私は広報の「広さ」についても考えることがあります。

新聞、ホームページ、SNS などを使って、不特定多数の人に広く情報を届ける。

それには大きな意味があります。ロータリーを知らない人に、まず存在を知っていただくためには必要なことです。

しかし、一つの奉仕活動を SNS で発信し、何千人という人に届いたとして、その中でどれだけの人が立ち止まり、ロータリーに関心を持ってくれるでしょうか。

一方で、私たちのすぐ近くには、すでにロータリーと何らかの接点を持っている人たちがいます。

奉仕活動を一緒に行った地域の方。

協力してくださった学校や行政の方。

ローターアクターやインターアクター。
会員の家族や職場の仲間。
そして、一人ひとりの友人や知人。

私は、こうした人たちとの関係を、もっと大切にしてもよいと思っています。

ロータリーが一万人に向かって、
「私たちは、こんな活動をしています」
と発信する。

それとは別に、実際にロータリーと関わった一人の人が、その隣にいる人に、
「ロータリーって、こんな人たちだったよ」
「一緒にやってみたら面白かったよ」
と話してくれる。

同じ「伝える」でも、そこには違った力があります。
後者には、語る人自身の体験と、聞く人との間にある信頼が伴うからです。
だから私は、公共イメージを考えるとき、どれだけ多くの人に届けたかだけではなく、
「誰から、誰へ伝わったのか」
も大切にしたいと思います。

「クワイエット・ラグジュアリー」という言葉から

最近、「クワイエット・ラグジュアリー（Quiet Luxury）」という言葉を知りました。

大きなロゴや華美な装飾で価値を主張するのではなく、素材や仕立て、そのものが持つ質によって、静かに価値が伝わっていく。
もちろん、ロータリーとラグジュアリーを同じものとして考えるわけではありません。
けれども、この言葉を知ったとき、私は公共イメージにもどこか通じるものがあるように感じました。

私たちは、ロータリーの価値を言葉にして伝えようとします。
「こんな活動をしています」
「これだけ地域に貢献しています」

それをきちんと発信することは必要です。
しかし、自分たちで価値を語り続けなければ、その価値が伝わらないとすれば、それでよいのでしょうか。

日々の活動や地域との関わり、会員一人ひとりの振る舞いを見て、
「ロータリーって、いいね」
と誰かが感じてくれる。

さらに、その人が隣にいる誰かに、自分の言葉でその経験を話してくれる。
大きな声で価値を語るのとは違う、伝わり方があります。
私は、そこに「クワイエット・ラグジュアリー」という言葉から得られる一つの示唆があるように思います。

ロータリーの価値を小さな声で伝えればよい、ということではありません。
必要なことは、きちんと発信する。

しかし、その先に、
「発信する」から「伝わっていく」へ。
そんな公共イメージのあり方も考えてみたいと思います。

ストーリーが、人から人へ伝わっていく

人から人へ伝わるものを考えると、ストーリーテリングにもつながります。

活動の日時や参加人数、実績を伝えることは必要です。しかし、それだけでは、その活動の意味まではなかなか伝わりません。
なぜ、その活動を始めたのか。
誰と出会ったのか。
一緒に何を考えたのか。
そこで何が生まれたのか。
そして、私たち自身は何を感じ、何を学んだのか。

そこにストーリーがあります。

ただ、私はロータリーが上手なストーリーをつくって発信することだけが、ストーリーテリングではないと思っています。
大切なのは、誰がそのストーリーを語るのかです。

ロータリー自身が語るだけではなく、奉仕のお相手や、一緒に活動した地域の人が、自分自身の体験として誰かに語ってくれる。
その言葉には、私たちがまとめた活動報告とは違う手触りがあります。
そう考えると、私たちがつくるべきなのは、上手な物語だけではありません。

人が誰かに語りたくなるような経験を、一緒につくること。
関係の中で生まれた経験が、誰かに話したくなるストーリーになる。
その声を通じて、ロータリーとまだ接点のない人にも活動の意味が届いていきます。
それは「発信する」というより、「伝わっていく」ということなのかもしれません。

奉仕のお相手を、広報の対象だけにしない

だからこそ、公共イメージを考えるとき、忘れてはいけないことがあります。

奉仕活動には、必ずお相手がいます。
活動を発信するとき、その方々を「ロータリーが何をしたか」を示すためだけの存在にしてはいないでしょうか。
奉仕のお相手にも、それぞれの人生があり、思いがあり、尊厳があります。

だから、
「私たちは何をしてあげたか」
だけではなく、
「誰と出会い、一緒に何を考え、何が生まれたのか」
を伝えていきたいと思います。

何をしたかだけではなく、どう関わったか。
そこには、私がこれまで考えてきた「奉仕の理念」と公共イメージとの接点もあります。
よい関係が生まれれば、奉仕のお相手自身の言葉が、私たちの知らないところで誰かに届くかもしれません。

その伝わり方にも、公共イメージを考える手がかりがあると思います。

「見てもらう」から「関わってもらう」へ
そして私は、これからの公共イメージには、もう一歩先があると思っています。

ロータリーを知ってもらう。
活動を見てもらう。

そこで終わらせない。
「面白そうだ」
「一緒にやってみたい」
「自分にもできることがありそうだ」

そう思ってもらう。
つまり、
「見てもらう」から、「関わってもらう」へ。
公共イメージを、ロータリーと地域をつなぐ入口として考えてみたいのです。

そのためには、ロータリーの中だけで活動を完結させないことです。
地域の人と話す。若い世代の声を聞く。ローターアクトやインターアクトと一緒に考える。行政や学校、企業、さまざまな団体ともつながる。

ロータリーから外へ扉を開く。
そして同時に、外からロータリーへ入ってこられる扉も開いておく。

公共イメージから、「関係のデザイン」へ
ここまで考えてくると、公共イメージを「ロータリーが社会からどう見られるか」だけで捉える必要はないように思えてきます。

ロータリーをどう見てもらうかではなく、
ロータリーと地域との間に、どんな関係をつくっていくのか。
公共イメージから、いわば「関係のデザイン」へ。

ここでいうデザインとは、人をこちらの思い通りに動かすことではありません。
人と人が出会える場をつくる。
話せる機会をつくる。
一緒に考えられる余白をつくる。
一緒に行動できる入口をつくる。

そして、その中から生まれた関係が、また次の関係へとつながっていく。

ロータリアンだけで奉仕活動を完結させるのではなく、地域の人にも加わってもらう。奉仕のお相手にも、「してもらう人」だけではなく、一緒に考える人になってもらう。
そこで生まれた経験を、それぞれが自分の言葉で語れるようになる。
公共イメージを高めることを目的にするのではなく、よい関係をつくった結果として、地域の中にロータリーへの信頼が生まれる。

私は、その順序を大切にしたいと思います。

地域から、どう見える存在でありたいか

公共イメージを高めるために、何を発信するか。

もちろん、それは大切です。
しかし、その前に一度、それぞれのクラブで考えてみてはいかがでしょうか。
私たちは、地域から、どう見える存在でありたいのか。

そして、もう一つ。
地域の人たちから、「この地域にロータリーがあってよかった」と思っていただけるクラブであるだろうか。

その答えは、ホームページや SNS の中だけにはありません。
例会にもあります。
奉仕活動にもあります。
地域との関わりにもあります。
そして何より、会員一人ひとりの日々の振る舞いの中にあります。

公共イメージとは、ロータリーをよく見せることではない。
私たちが大切にしているものを、社会に開いていくこと。

広く発信することで、誰かがロータリーを知る。
実際に関わることで、ロータリーを理解する。
そこに、その人自身のストーリーが生まれる。
そして、その人が隣にいる誰かにロータリーを語る。
その誰かが、今度はロータリーに関わってくれる。

人から人へ。
関係から関係へ。
ロータリーから地域へ。
そして、地域からロータリーへ。

公共イメージから、関係のデザインへ。

それは広報をやめることでも、公共イメージという考え方を否定することでもありません。
広報のその先に、人との関係を見ること。

私が今年度掲げている「ロータリーを開く」とは、そんなことでもあるのだと思います。

表紙説明

タイトル： 世界精神（welt geist）

作者：吉原京司（yoshiwara kyouji）
F10 号 油彩・キャンバス



金詩や絵画で自己実現、自己超克、自己超越、
自分が求める芸術表現を探求中です。

高崎市本町にある NPO 法人工房あかねが運営する障害福祉事業所「アトリエ ART・ON」では、利用者が自由に自己表現を楽しみながら創作活動に取り組んでいます。絵画や工作、刺繍など、スタッフと共に多彩な制作を行い、その成果は展示会への出展やアートグッズとしての展開など、さまざまな形で発信されています。

ガバナー事務所よりお願い

■ガバナー月信に関して

・原稿の締め切りは、毎月 15 日です。ワードまたはエクセル書式で作成の上、メール添付し竹中隆ガバナー事務所（takenaka@rid2840.jp ）まで送信してください。なお、写真等の画像がある場合は、デジタルデータでお送りください。

・新会員情報並びに訃報の締切りは、毎月 15 日です。（15 日以降のご連絡分につきましては、次月号の掲載となります。）新会員につきましては氏名、入会日、職業分類、勤務先、役職、推薦者氏名を記入の上、写真を添えて、ガバナー事務所ホームページの専用欄かメールにてお送りください。
なお、訃報につきましてはクラブ会長様に 250 字以内で追悼文を作成いただき、ご連絡をお願いいたします。

■ガバナー事務所に関して

・ガバナー事務所の開所時間は従前どおり午前 10 時から午後 5 時となっておりますのでよろしくお願いいたします。尚、原則として正午から午後 1 時までは昼休みとなっております。

■月信への寄稿のお願い

・毎月 1 日に発刊しているガバナー月信ですが、是非とも第 2840 地区の各クラブで行われた奉仕事業やクラブの自慢などを、月信に寄稿してみませんか？
原稿締め切りは毎月 15 日になります。原稿を 15 日以前にガバナー事務所宛にメールしていただければ翌月号に掲載させていただきます

Rotary

竹中 隆 ガバナー事務所

〒 371-0855 群馬県前橋市問屋町 2-2　前橋問屋センター会館 1F
TEL: 027-212-2840　FAX: 027-212-2841